

不登校に関する保護者の支援ニーズ等に関する調査 (速報)

令和6年10月

栃木県教育委員会

■調査概要

不登校対策の充実を一層推進するために、保護者の皆様が、お子さまとの関わりや学校との関わりの中で感じていることや支援ニーズ等について調査を実施した。

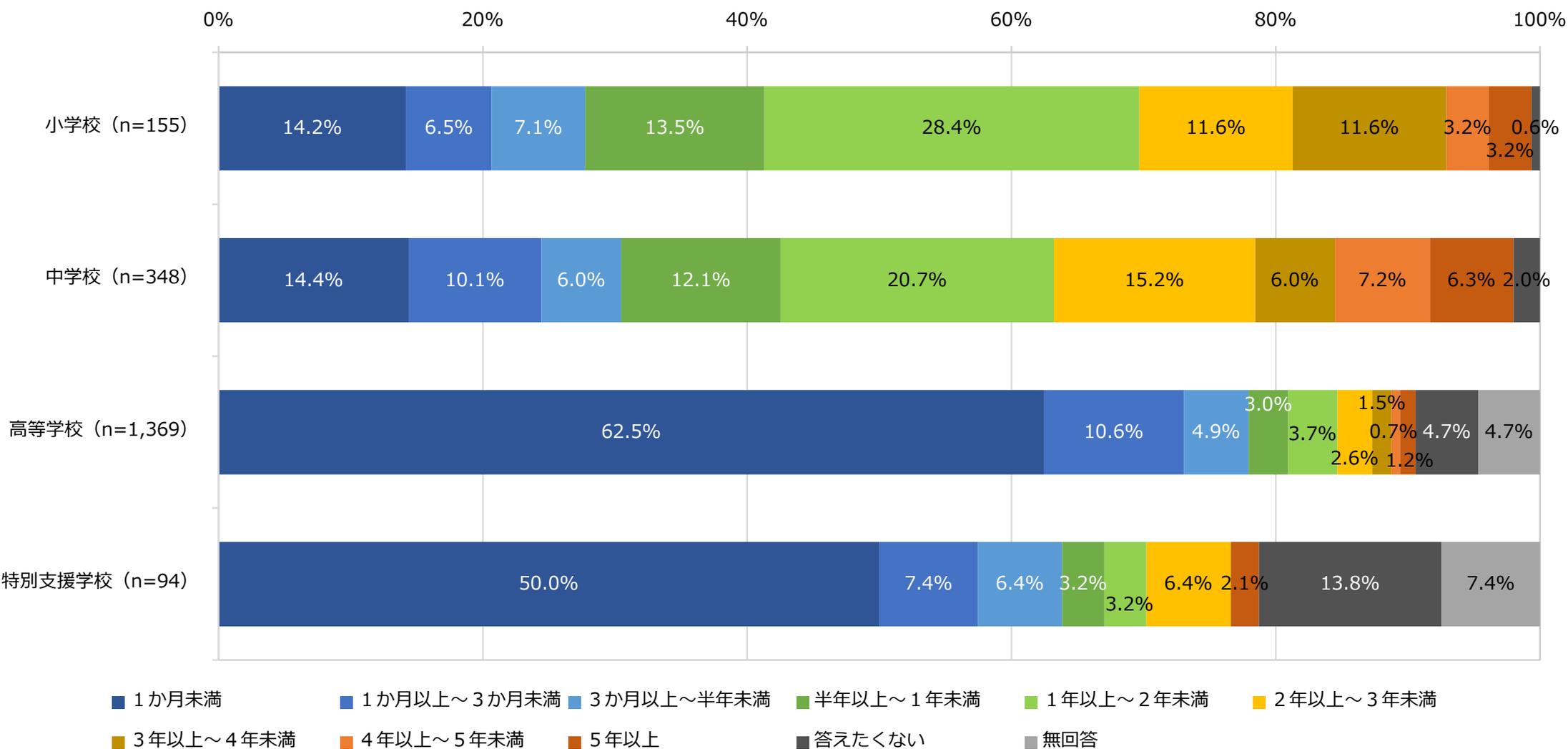
- ・ 調査対象：県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍している欠席の多い児童生徒の保護者
- ・ 調査方法：Web回答
- ・ 調査時期：令和6(2024)年9月4日(水)～9月30日(月)
- ・ 回収数：小学校 155人 中学校 348人 高等学校 1,369人 特別支援学校94人

※小学校には義務教育学校（前期課程）を含む。中学校には義務教育学校（後期課程）を含む。

1. 子どもが学校を休んでいる（休みがちになっている）およその期間

子どもが学校を休んでいるおよその期間についてみると、小学校では3割が、中学校では2割が「1年以上2年未満」となっている。一方、高等学校では6割が、特別支援学校では5割が「1か月未満」となっている。

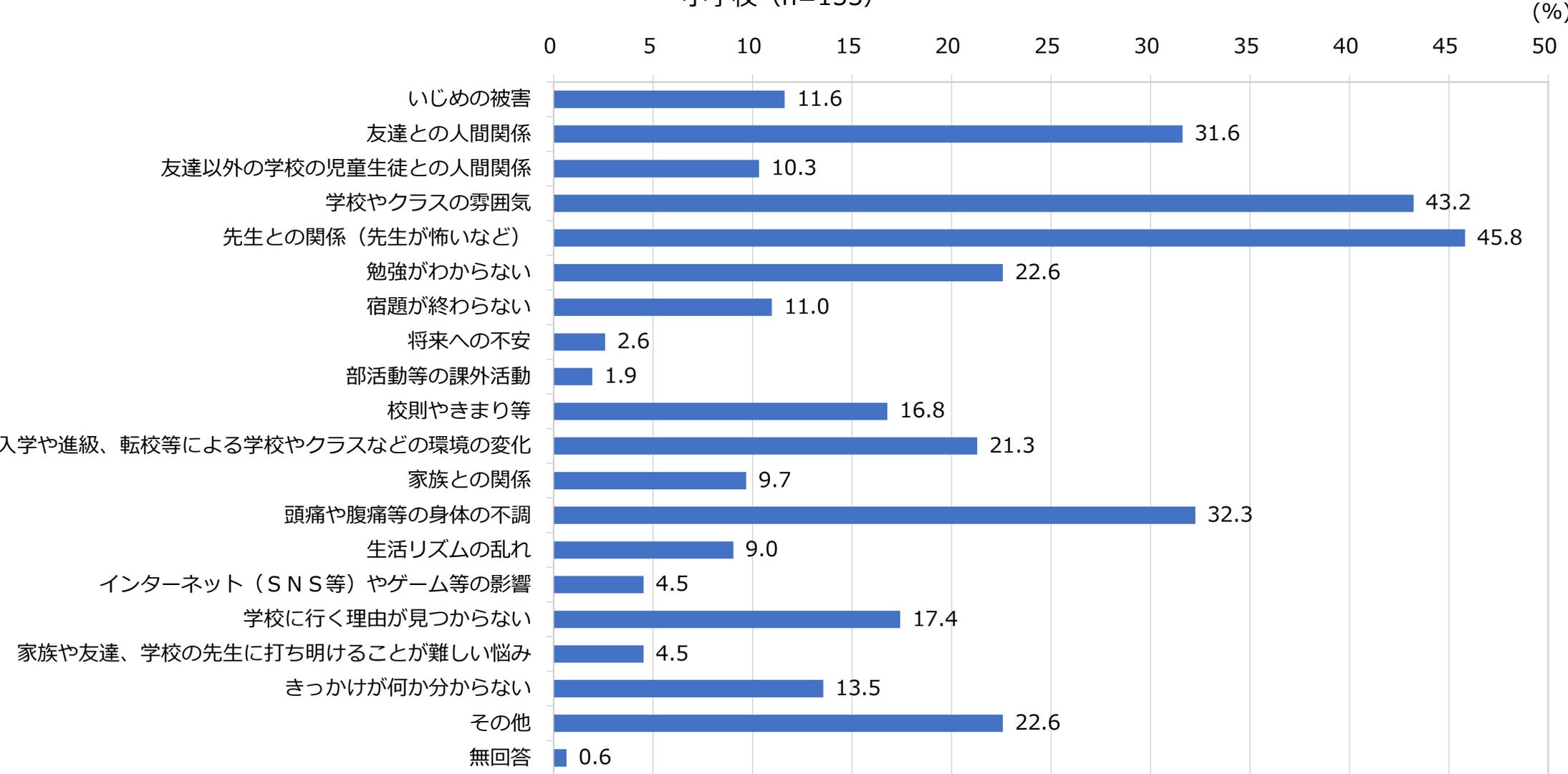
子どもが学校を休んでいる（休みがちになっている）およその期間



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

子どもが学校を休むようになったきっかけを見ると、小学校では、「先生との関係」の割合が45.8%と最も高く、次いで「学校やクラスの雰囲気（43.2%）」となっている。

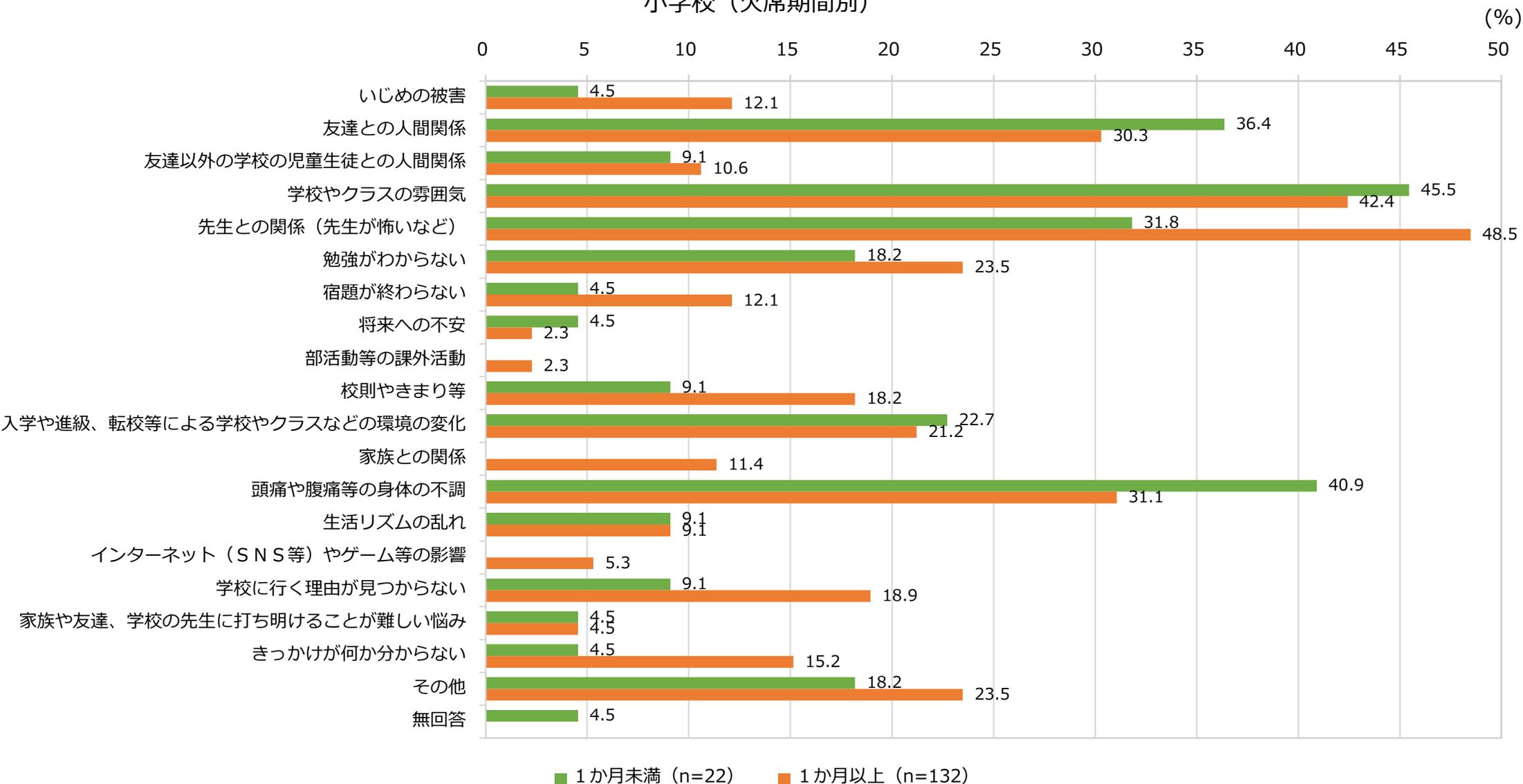
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
小学校（n=155）



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

欠席期間別に子どもが学校を休むようになったきっかけをみると、小学校では、1か月未満で「学校やクラスの雰囲気」の割合が45.5%と最も高いが、1か月以上では48.5%が「先生との関係」だと思っていると回答している。

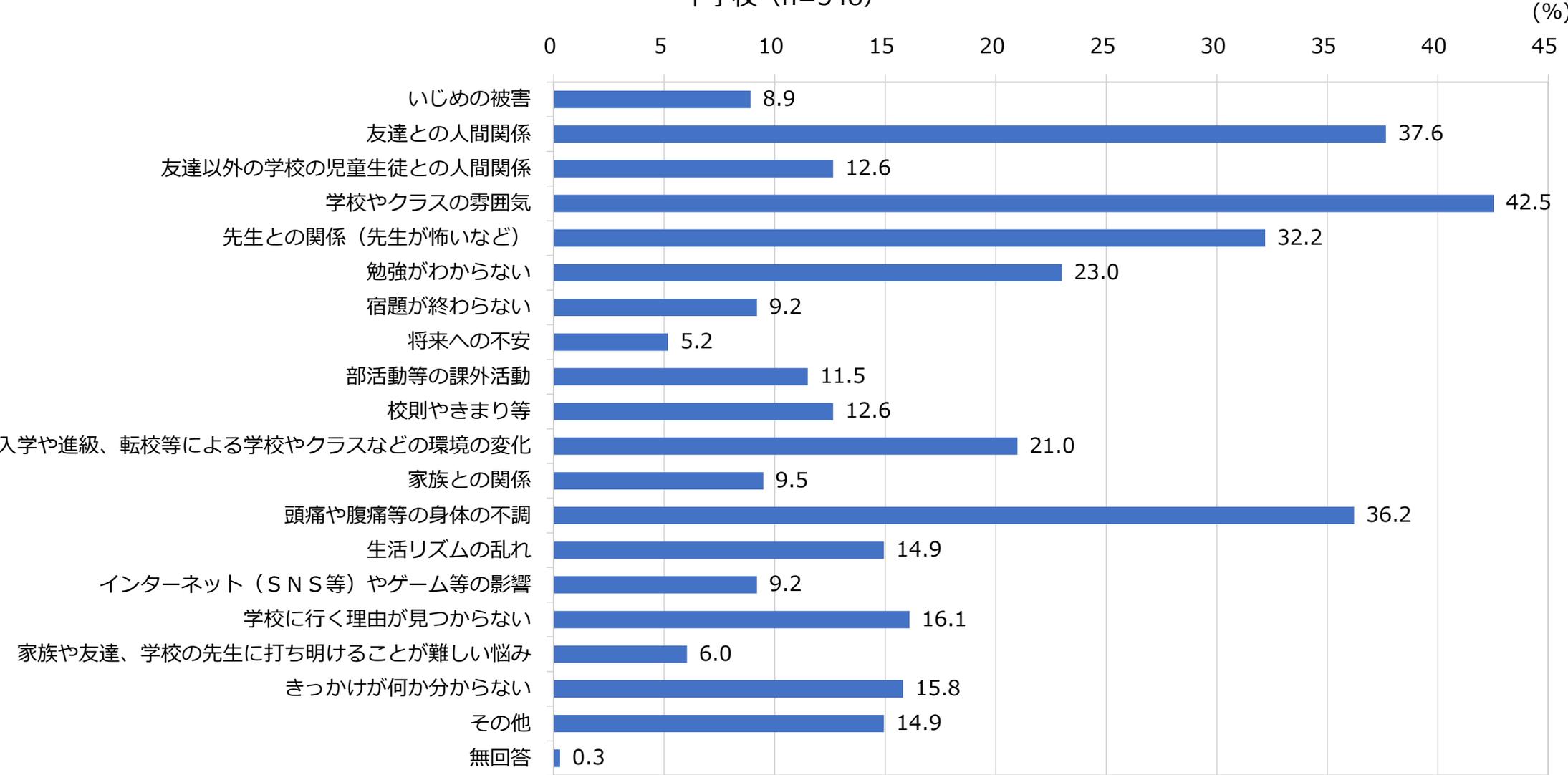
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
小学校（欠席期間別）



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

子どもが学校を休むようになったきっかけを見ると、中学校では、「学校やクラスの雰囲気」の割合が42.5%と最も高く、次いで「友達との人間関係（37.6%）」、「頭痛や腹痛等の身体の不調（36.2%）」と続いている。

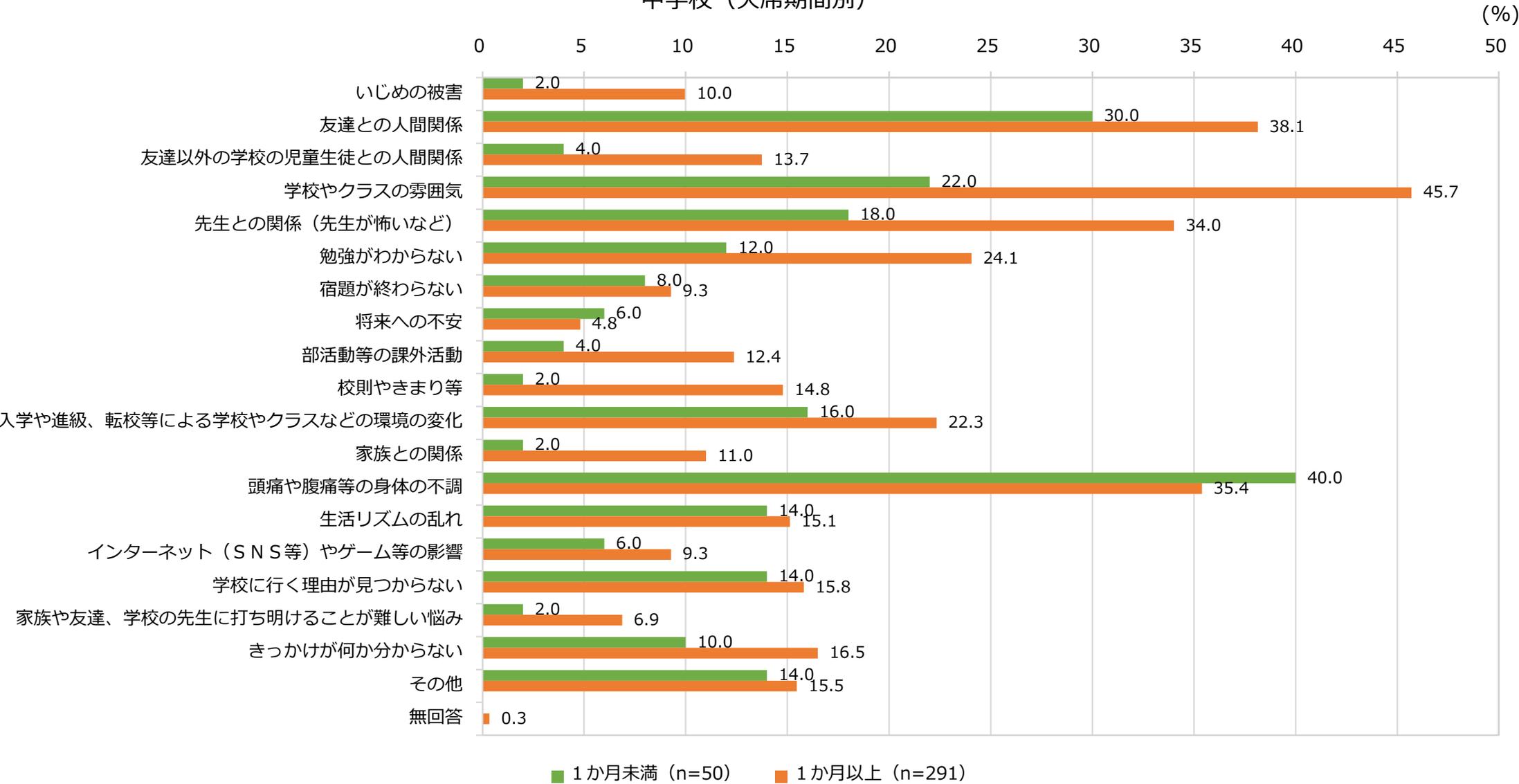
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
中学校（n=348）



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

欠席期間別に子どもが学校を休むようになったきっかけをみると、中学校では、1か月未満で「頭痛や腹痛等の身体の不調」の割合が40.0%と最も高いが、1か月以上では45.7%が「学校やクラスの雰囲気」だと思っていると回答している。

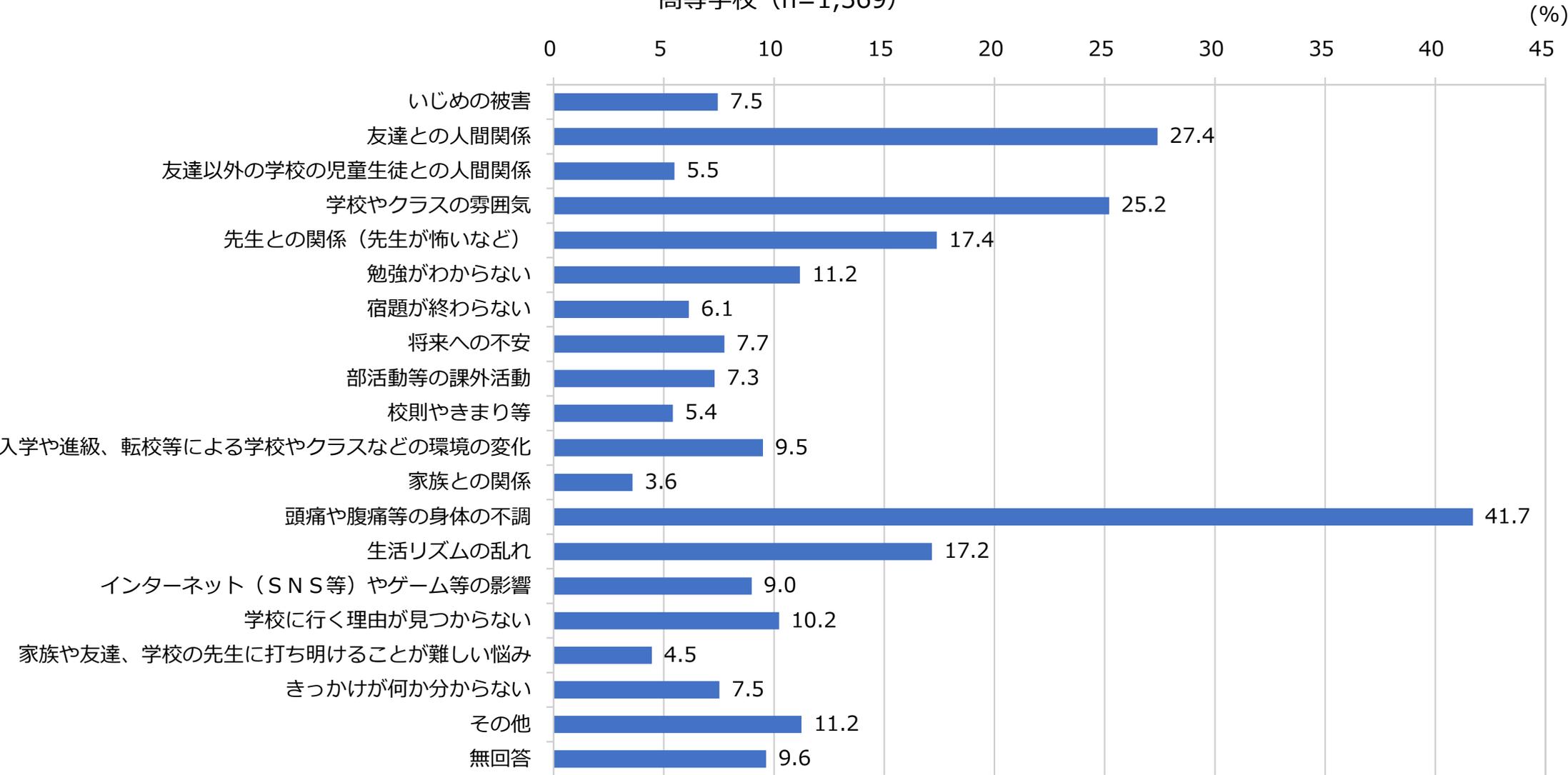
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
中学校（欠席期間別）



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

子どもが学校を休むようになったきっかけを見ると、高等学校では、「頭痛や腹痛等の身体の不調」の割合が41.7%と最も高く、次いで「友達との人間関係（27.4%）」、「学校やクラスの雰囲気（25.2%）」と続いている。

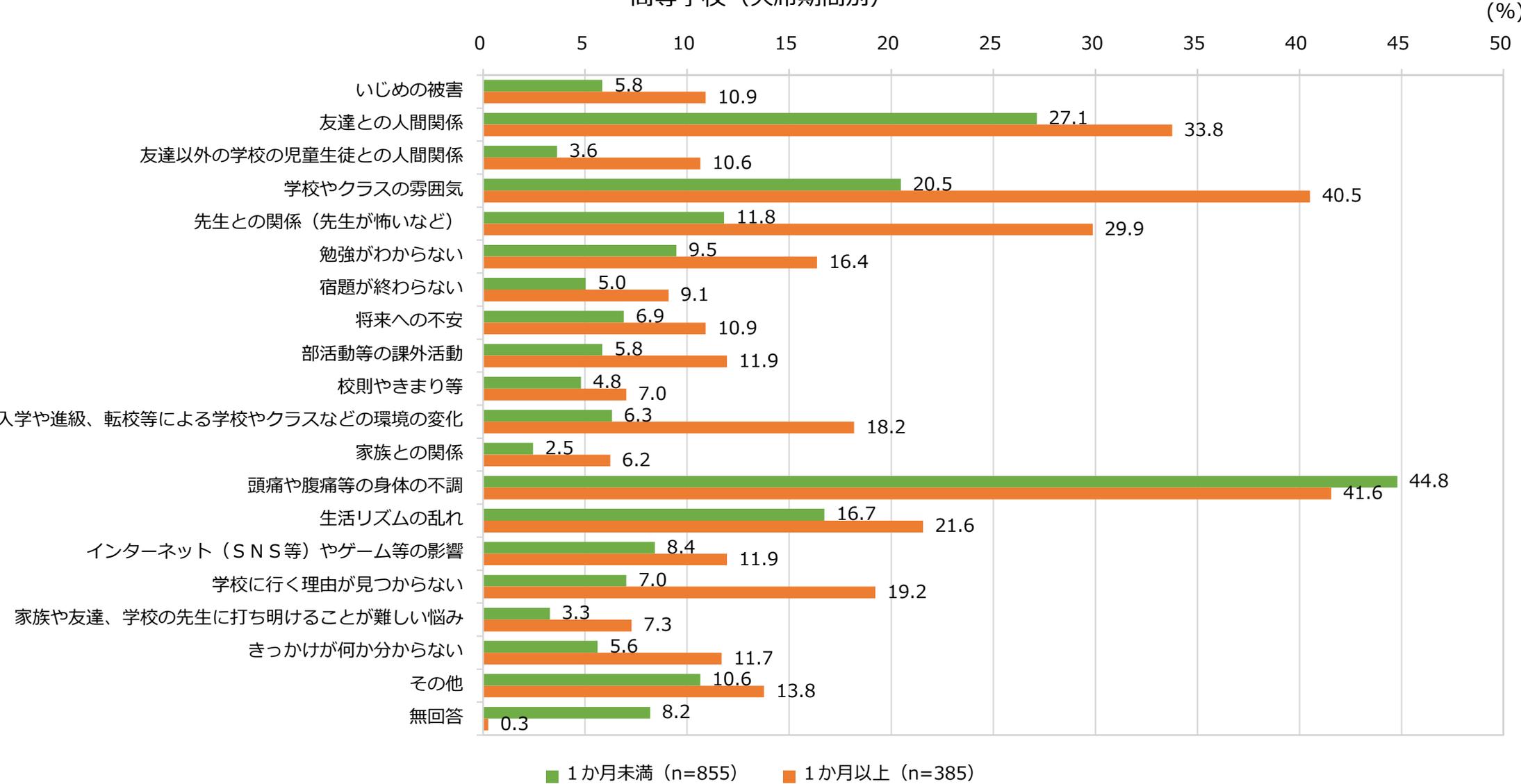
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
高等学校（n=1,369）



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

欠席期間別に子どもが学校を休むようになったきっかけをみると、高等学校では、1か月未満、1か月以上ともに「頭痛や腹痛等の身体の不調」の割合が最も高い。次いで1か月未満では「友達との人間関係」、1か月以上では「学校やクラスの雰囲気」となっている。

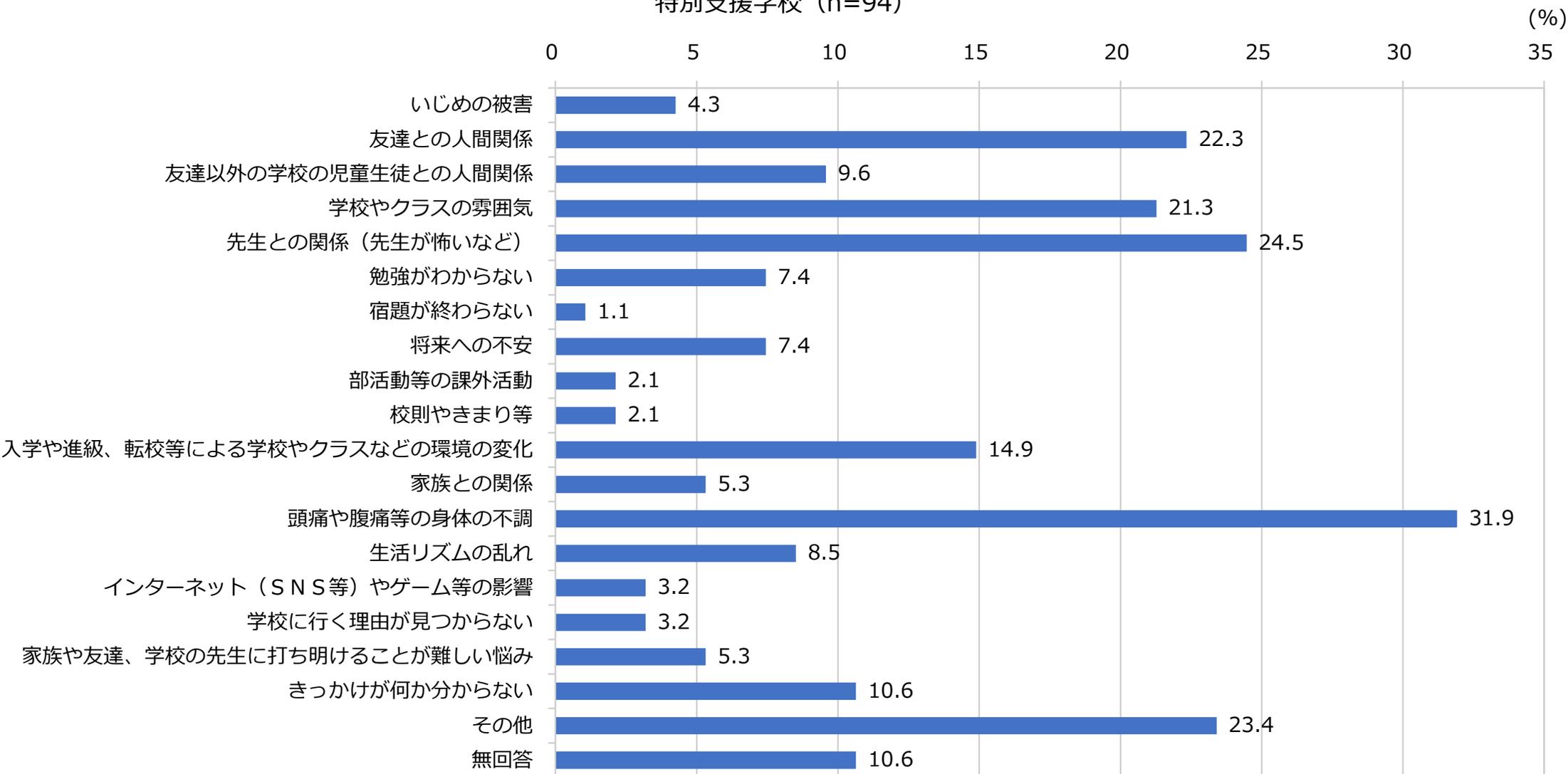
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
高等学校（欠席期間別）



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

子どもが学校を休むようになったきっかけを見ると、特別支援学校では、「頭痛や腹痛等の身体の不調」の割合が31.9%と最も高く、次いで「先生との関係（24.5%）」となっている。

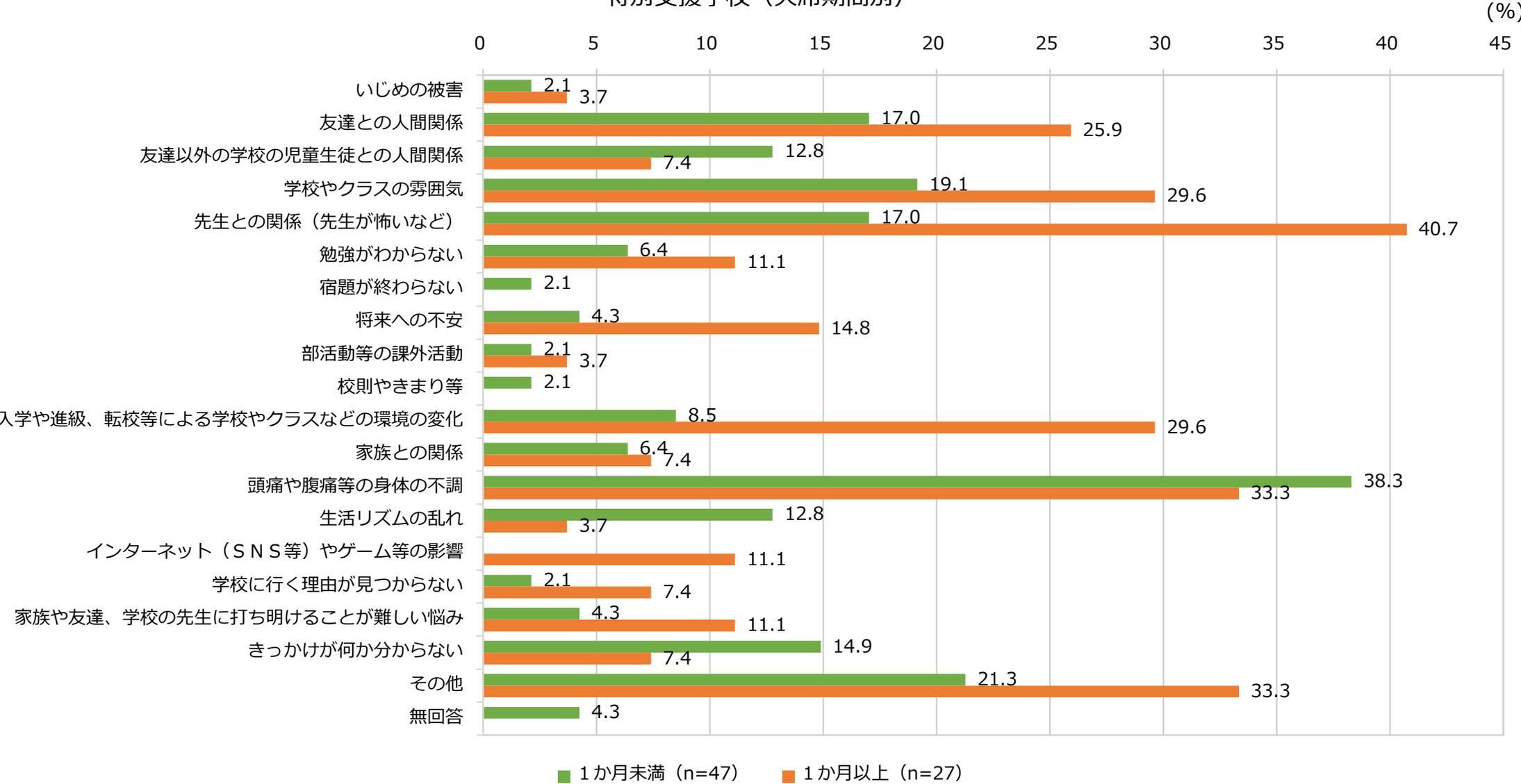
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
特別支援学校（n=94）



2. 子どもが学校を休むようになったきっかけ

欠席期間別に子どもが学校を休むようになったきっかけをみると、特別支援学校では、1か月未満で「頭痛や腹痛等の身体の不調」の割合が38.3%と最も高いが、1か月以上では45.7%が「先生との関係」だと回答している。

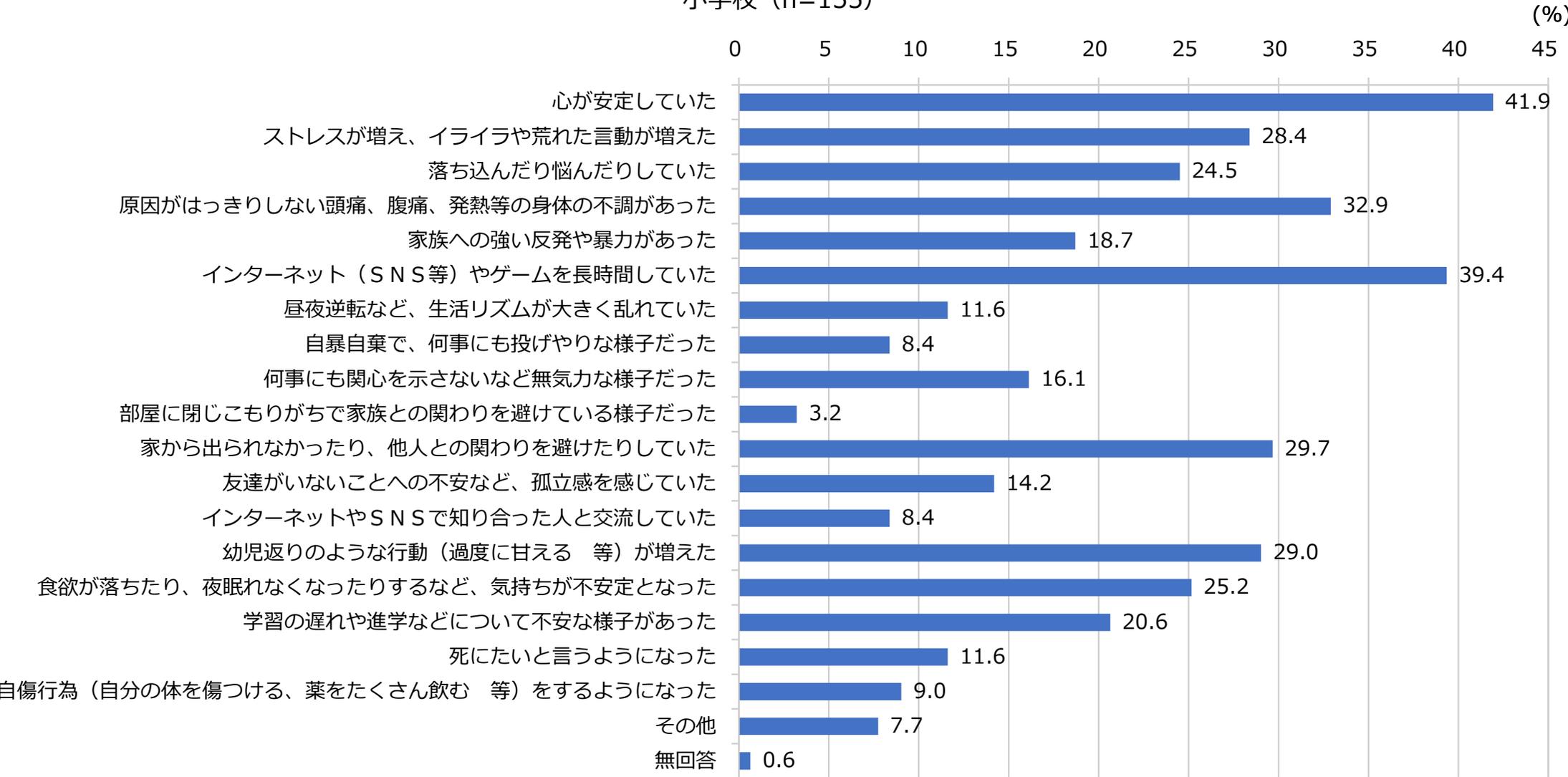
子どもが学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけ
特別支援学校（欠席期間別）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、小学校では、「心が安定していた」の割合が41.9%と最も高い。次いで「インターネットやゲームを長時間していた（39.4%）」、「原因がはっきりしない頭痛、腹痛、発熱等の身体の不調があった（32.9%）」と続いている。

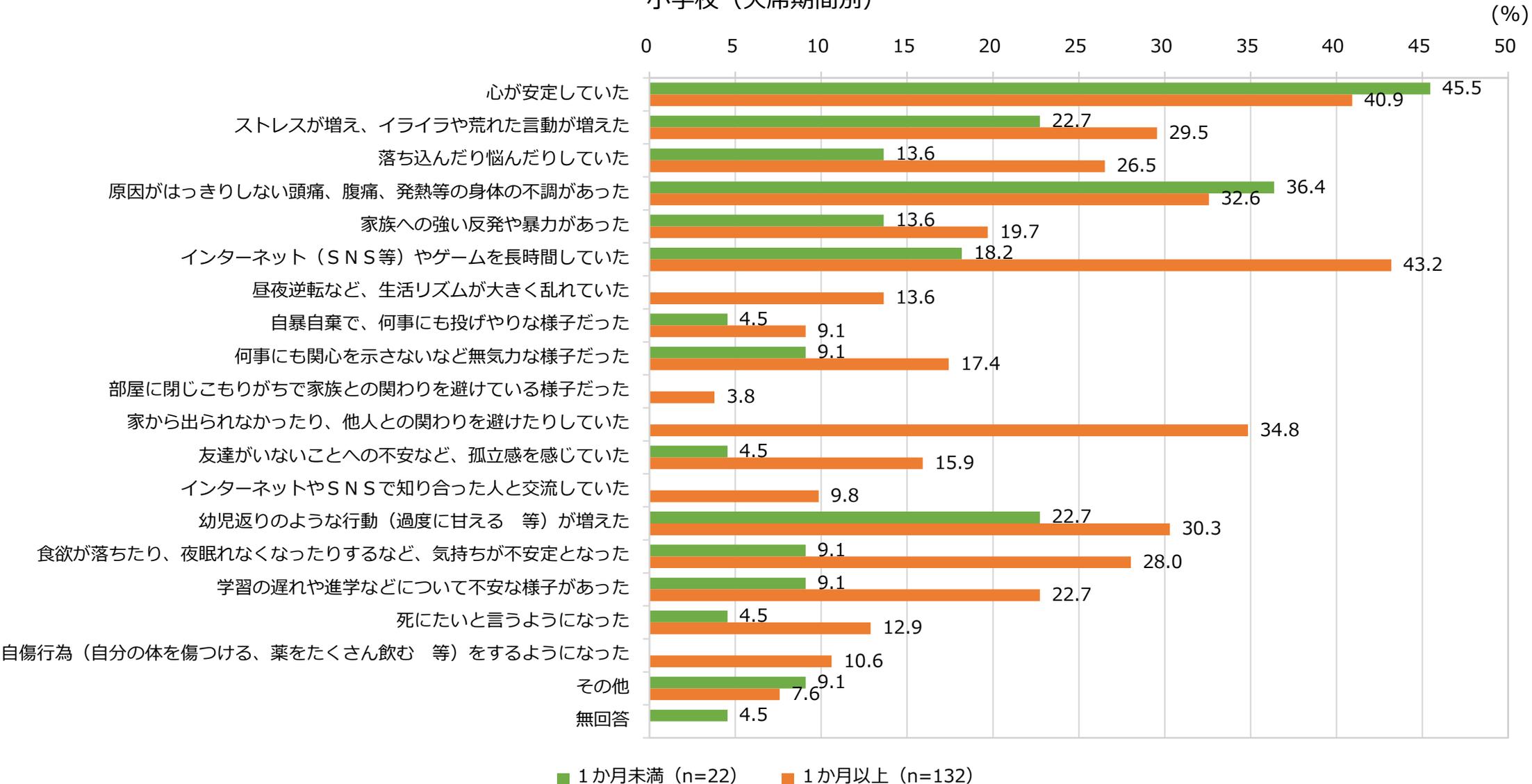
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
小学校（n=155）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

欠席期間別に学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、小学校では、1か月未満、1か月以上共に「心が安定していた」が4割を超え高い。一方、「インターネットやゲームを長時間していた」は、1か月以上では43.2%と割合が高く、1か月未満では18.2%と差が大きい。

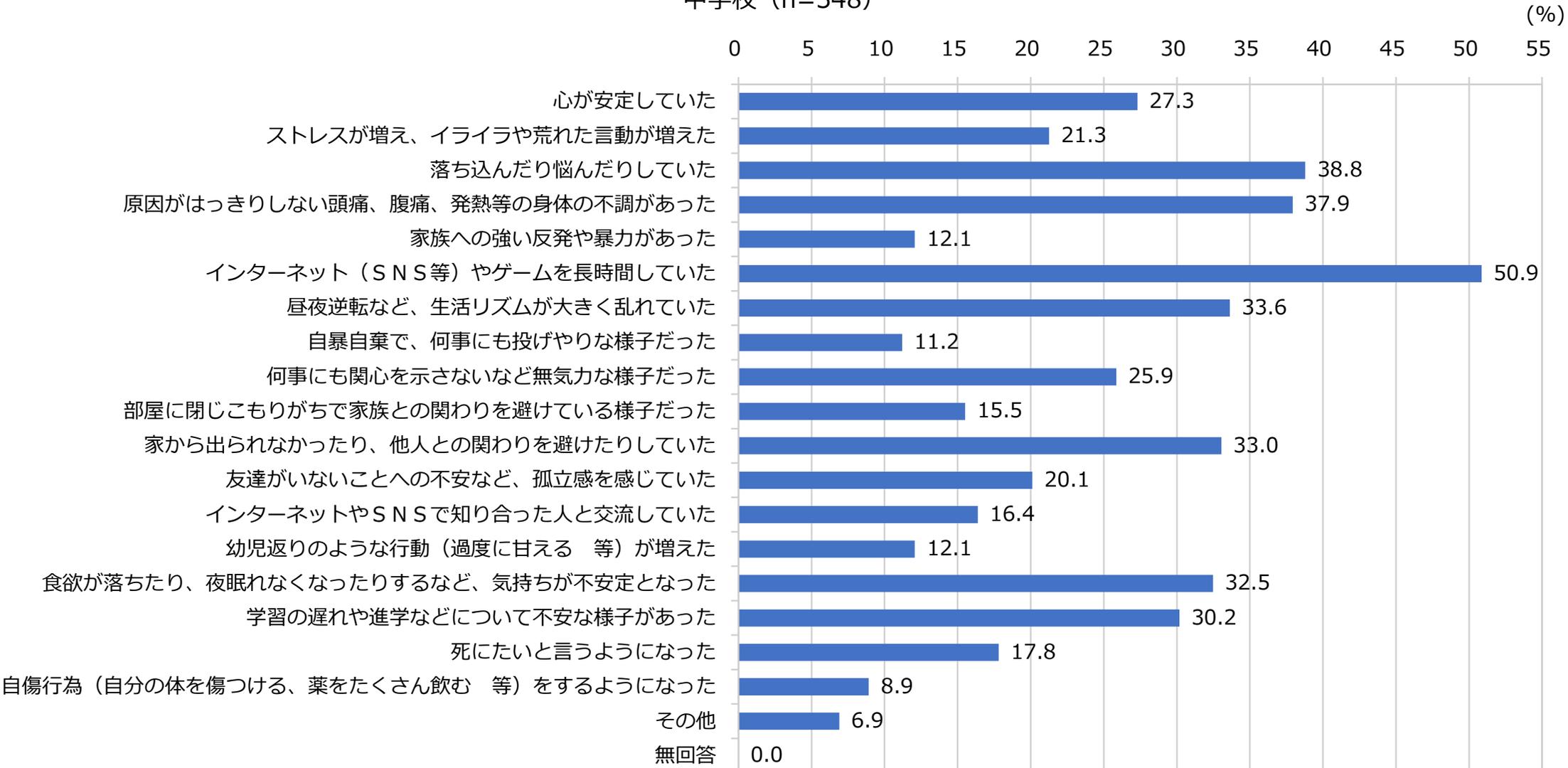
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
小学校（欠席期間別）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、中学校では、「インターネットやゲームを長時間していた」の割合が50.9%と最も高い。次いで「落ち込んだり悩んだりしていた（38.8%）」、「原因がはっきりしない頭痛、腹痛、発熱等の身体の不調があった（37.9%）」と続いている。

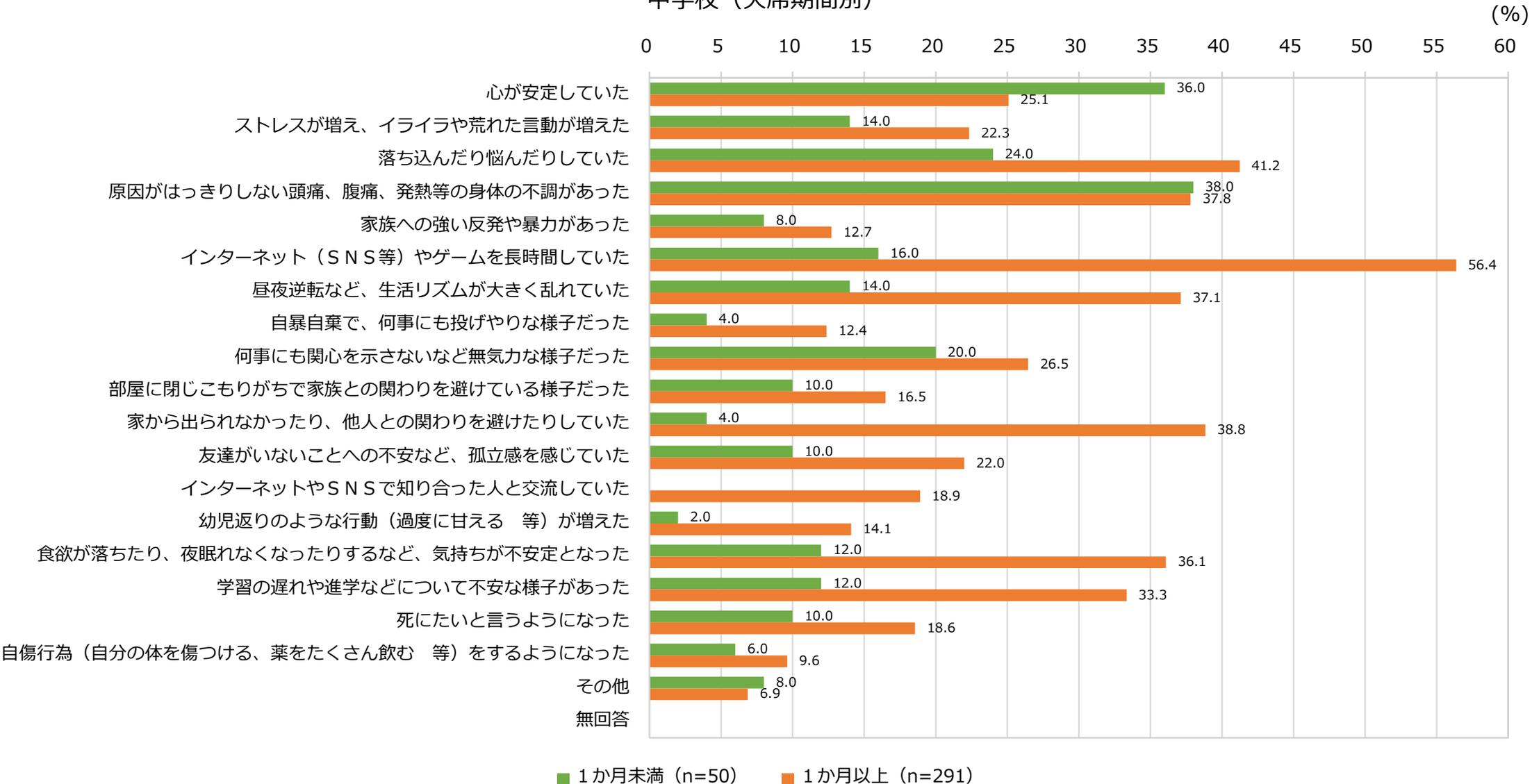
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
中学校（n=348）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

欠席期間別に学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、中学校の1か月未満では、38.0%が「原因がはっきりしない頭痛、腹痛、発熱等の身体の不調があった」と回答している。1か月以上では「インターネットやゲームを長時間していた」が56.4%と最も割合が高く、1か月未満（16.0%）との差が大きい。

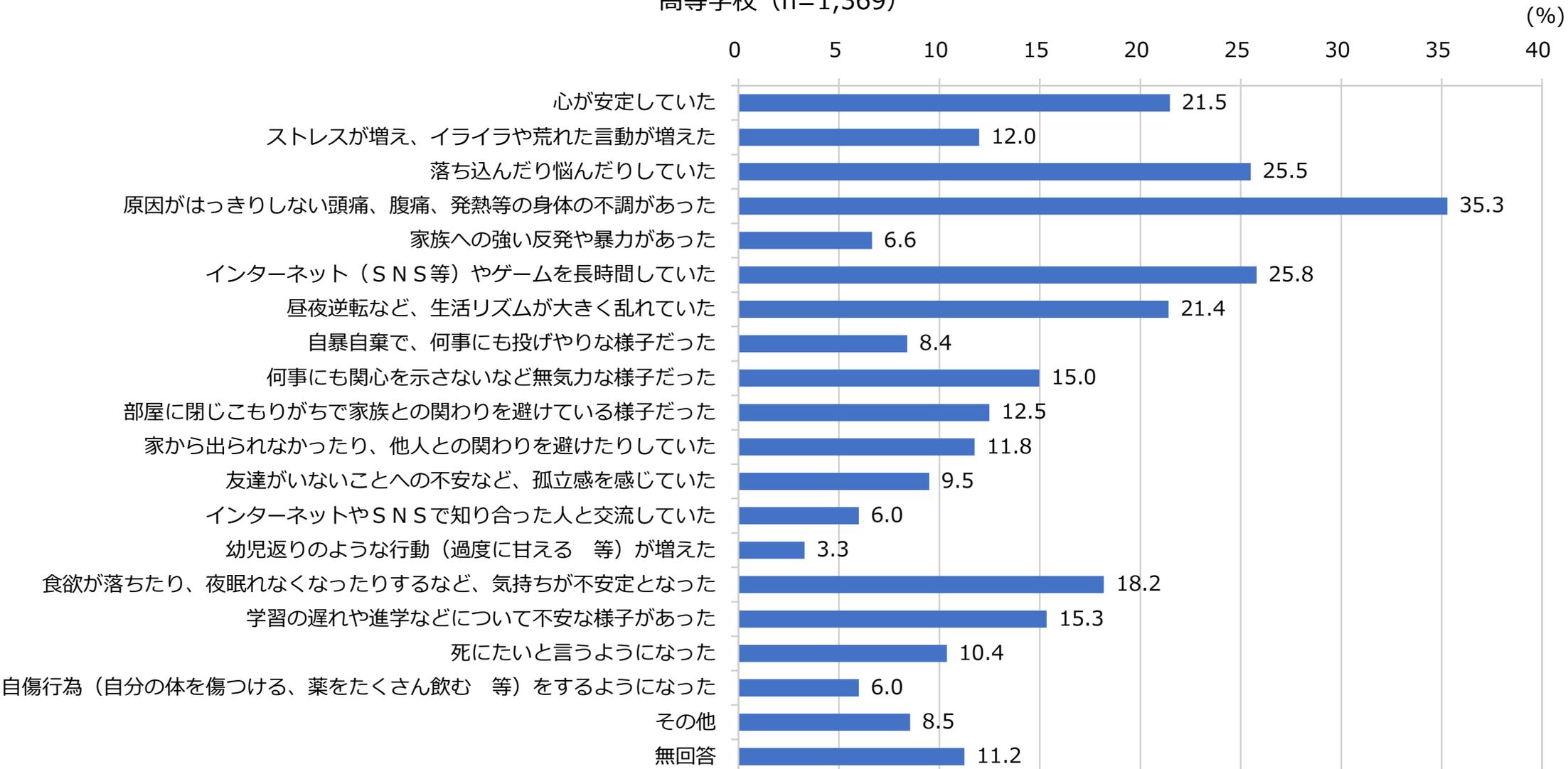
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
中学校（欠席期間別）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、高等学校では、「原因がはっきりしない頭痛、腹痛、発熱等の身体の不調があった」の割合が35.3%と最も高い。次いで「インターネットやゲームを長時間していた（25.8%）」、「落ち込んだり悩んだりしていた（25.5%）」と続いている。

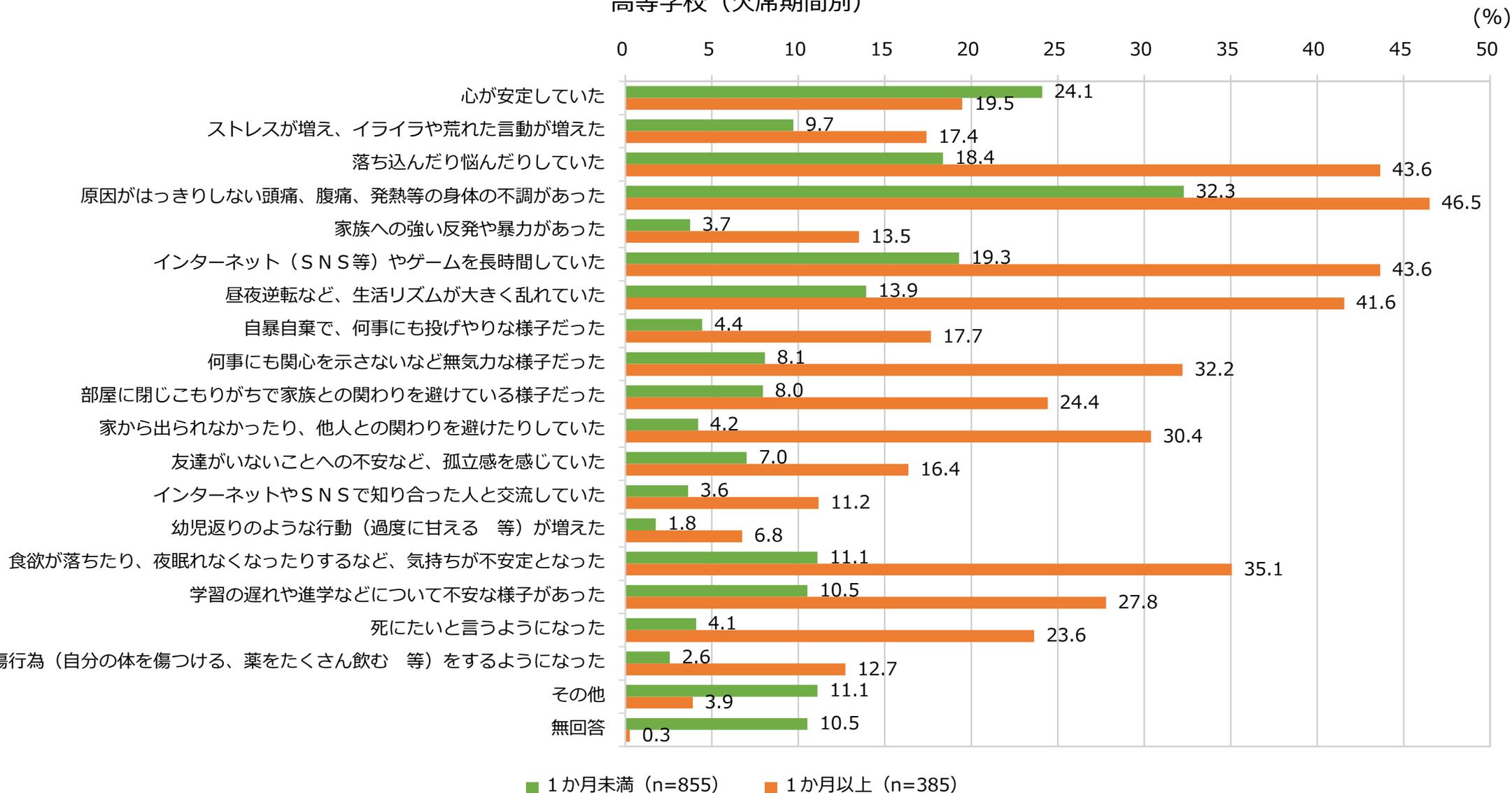
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
高等学校（n=1,369）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

欠席期間別に学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、高等学校では、1か月未満（32.3%）、1か月以上（46.5%）ともに「原因がはっきりしない頭痛、腹痛、発熱等の身体の不調があった」の割合が最も高い。1か月以上では「落ち込んだり悩んだりしていた」「インターネットやゲームを長時間していた」も4割以上と割合が高い。

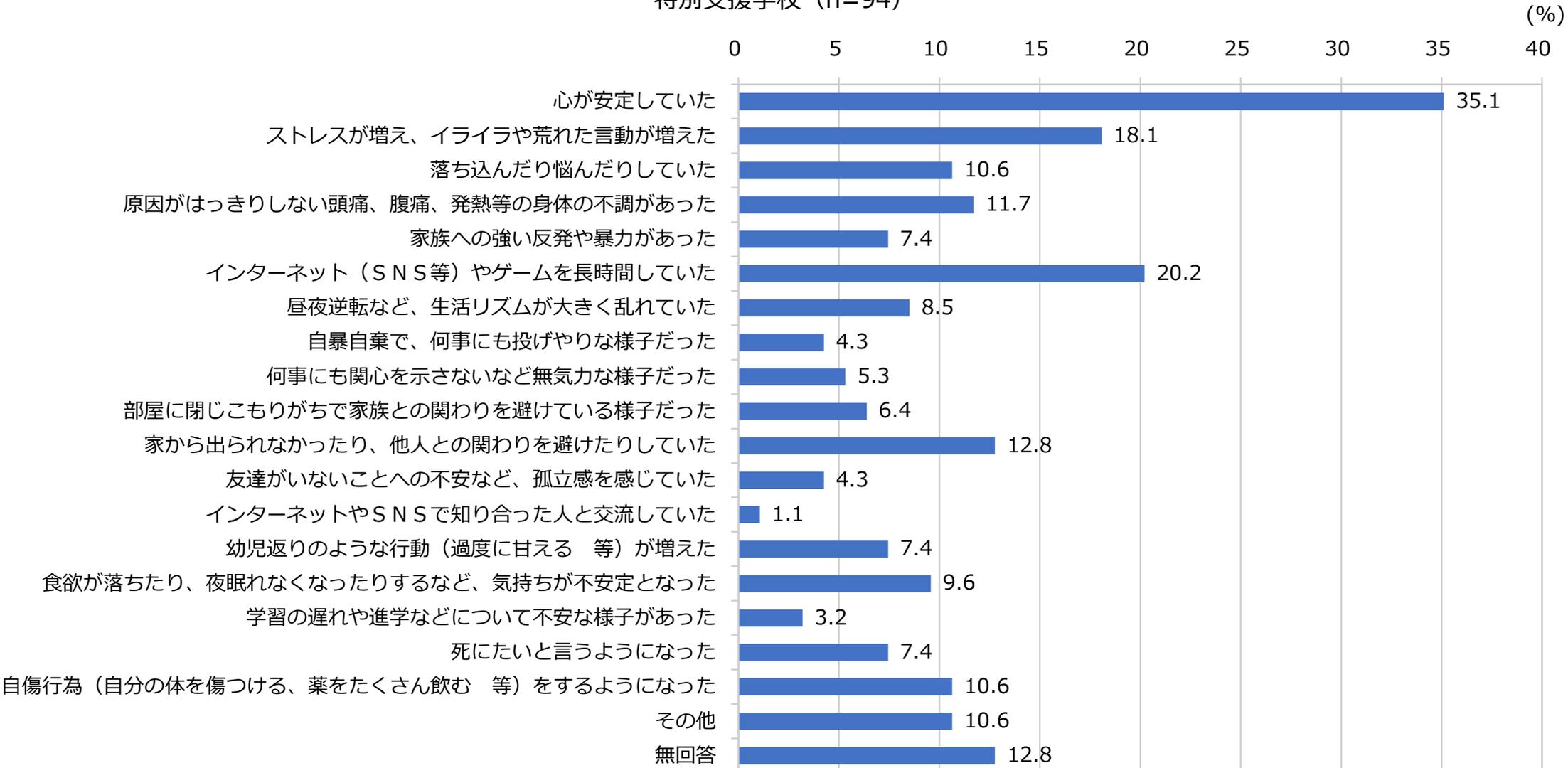
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
高等学校（欠席期間別）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、特別支援学校では、「心が安定していた」の割合が35.1%と最も高い。次いで「インターネットやゲームを長時間していた（20.2%）」、「ストレスが増え、イライラや荒れた言動が増えた（18.1%）」と続いている。

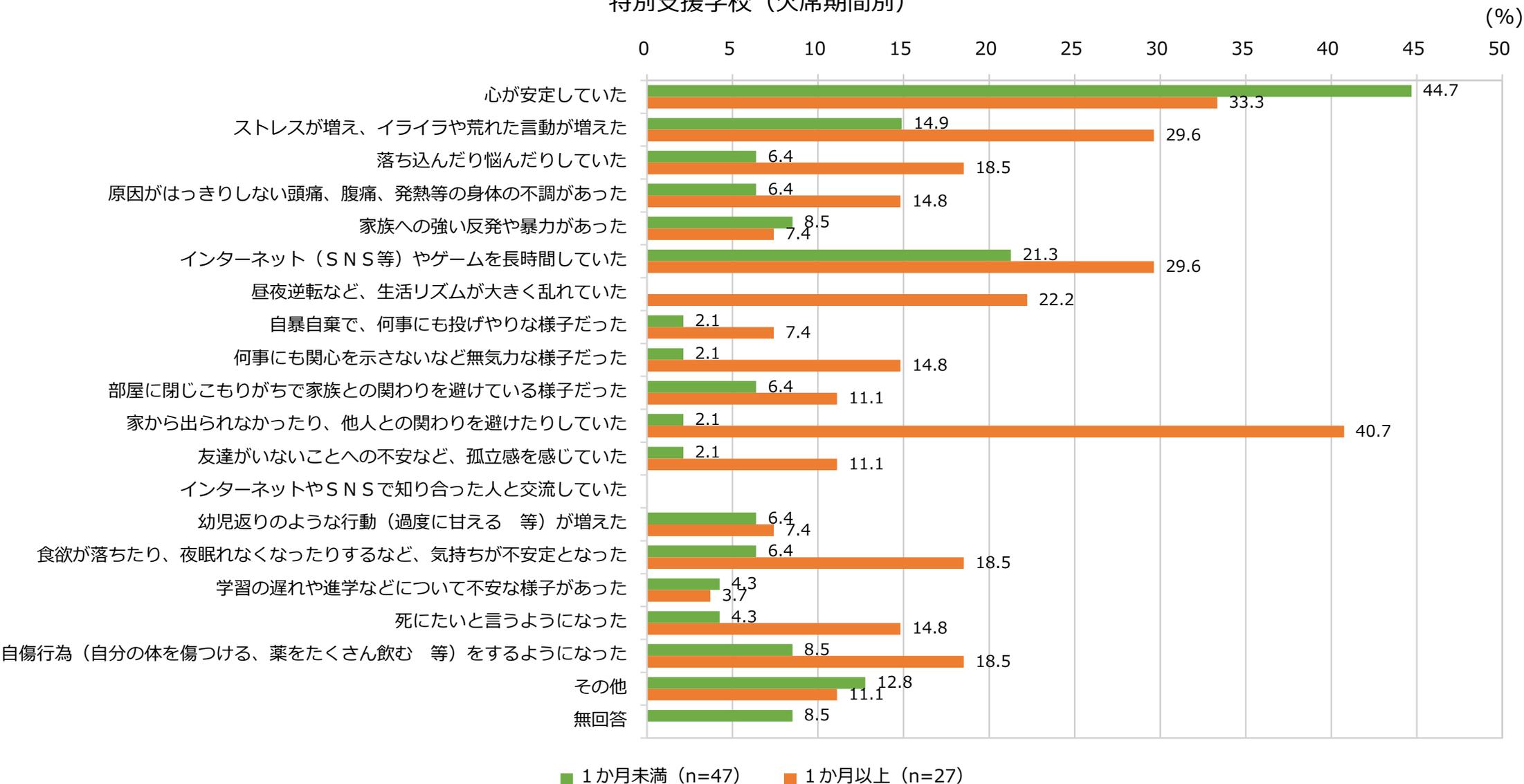
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
特別支援学校（n=94）



3. 学校を休んでいる間の子どもの様子

欠席期間別に学校を休んでいる間の子どもの様子についてみると、特別支援学校では、1か月未満で44.7%が「心が安定していた」と回答している。1か月以上では「家から出られなかったり、他人との関わりを避けたりしていた」の割合が40.7%と最も高く、1か月未満（2.1%）との差が大きい。

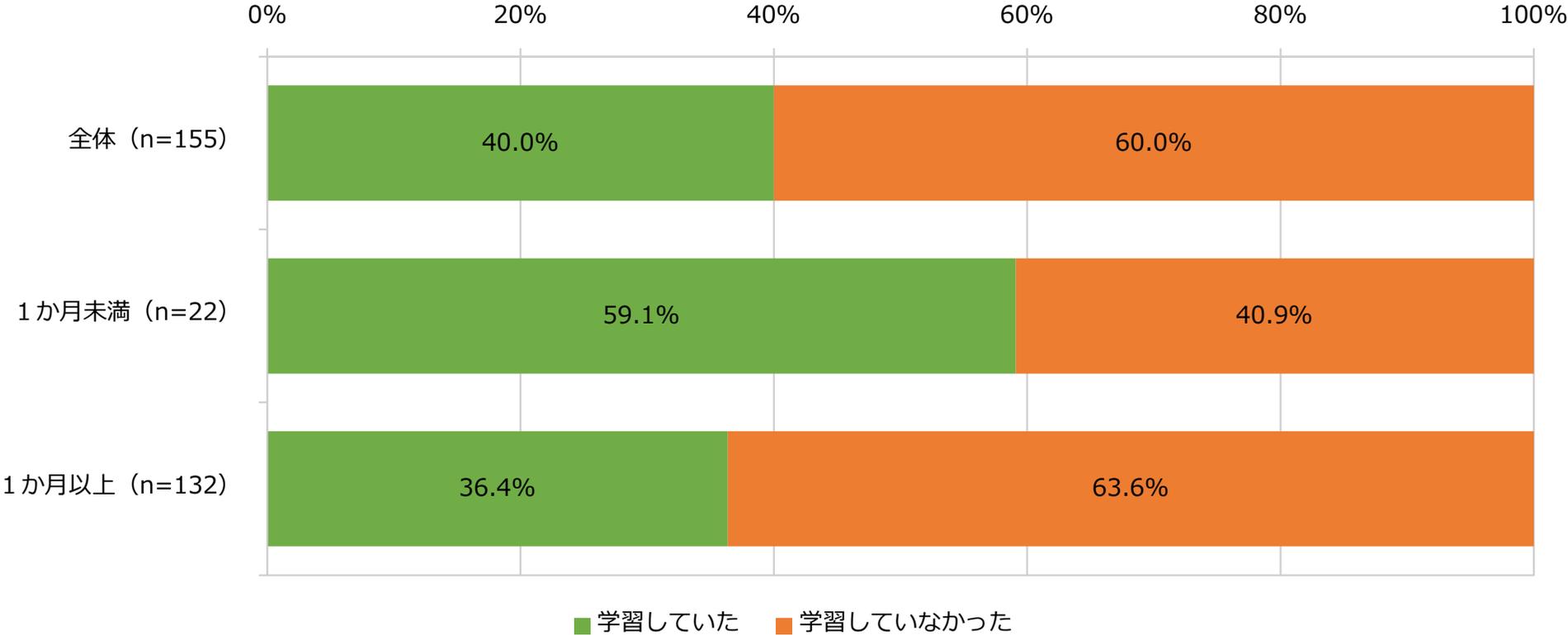
学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の子どもの様子
特別支援学校（欠席期間別）



4. 子どもが学校を休んでいる間の自宅学習の有無

欠席期間別に子どもが学校を休んでいる間の自宅学習についてみると、小学校では、1か月未満では「学習していた」が59.1%だが、1か月以上では36.4%となっている。

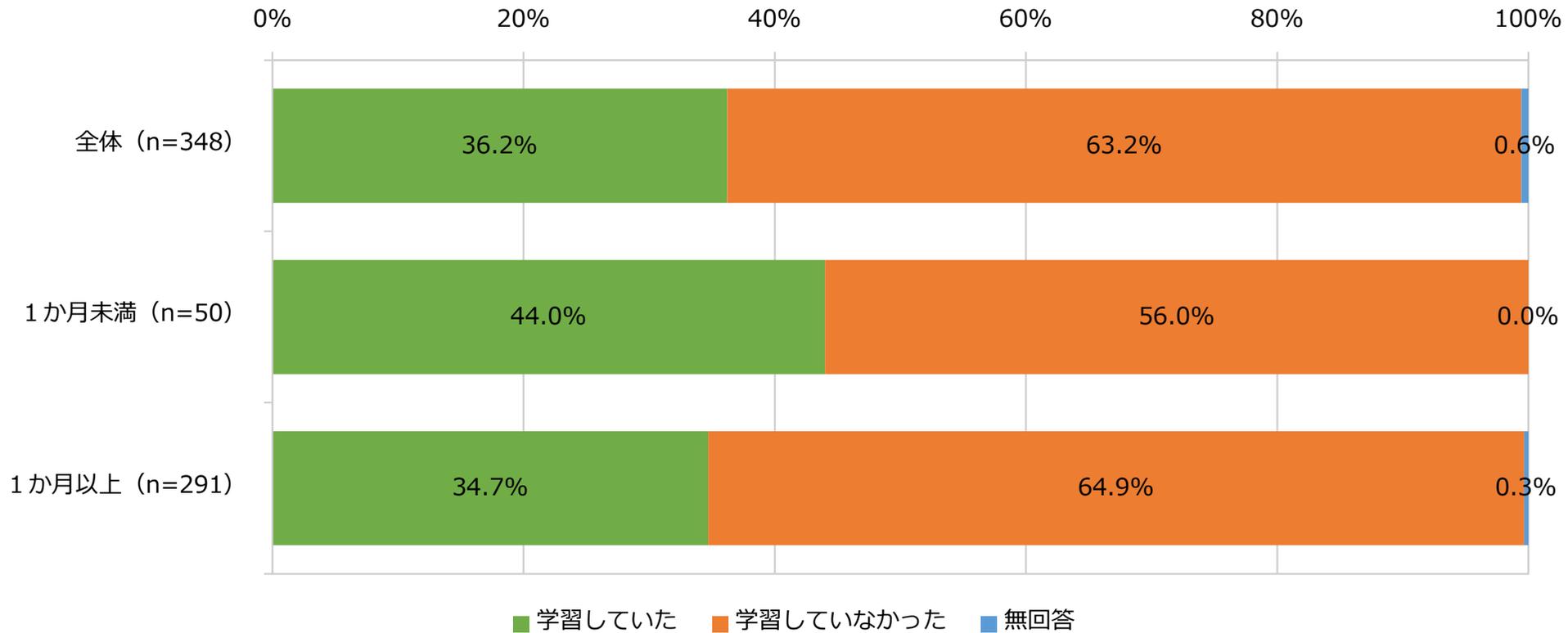
子どもが学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の自宅学習の有無



4. 子どもが学校を休んでいる間の自宅学習の有無

子どもが学校を休んでいる間の自宅学習についてみると、中学校では、1か月未満では「学習していた」が44.0%だが、1か月以上では34.7%となっている。

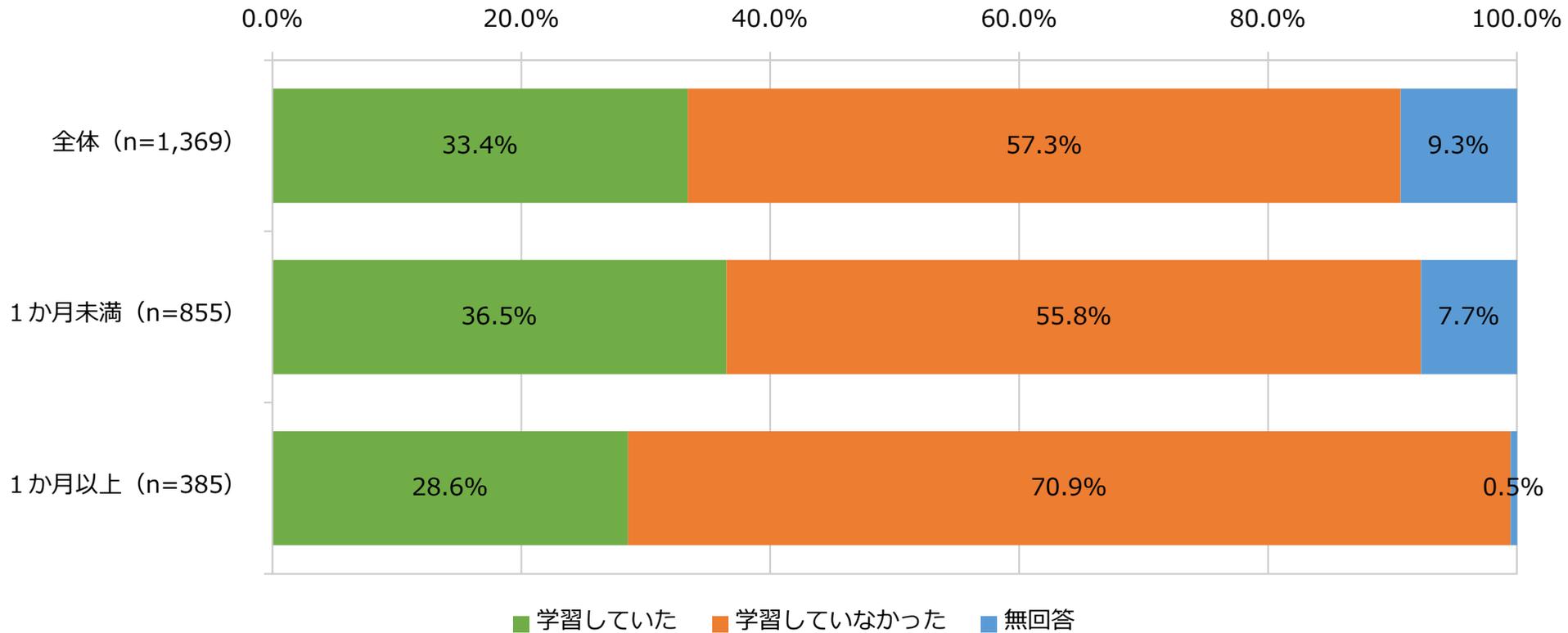
子どもが学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の自宅学習の有無



4. 子どもが学校を休んでいる間の自宅学習の有無

子どもが学校を休んでいる間の自宅学習についてみると、高等学校では、1か月未満では「学習していた」が36.5%だが、1か月以上では28.6%となっている。

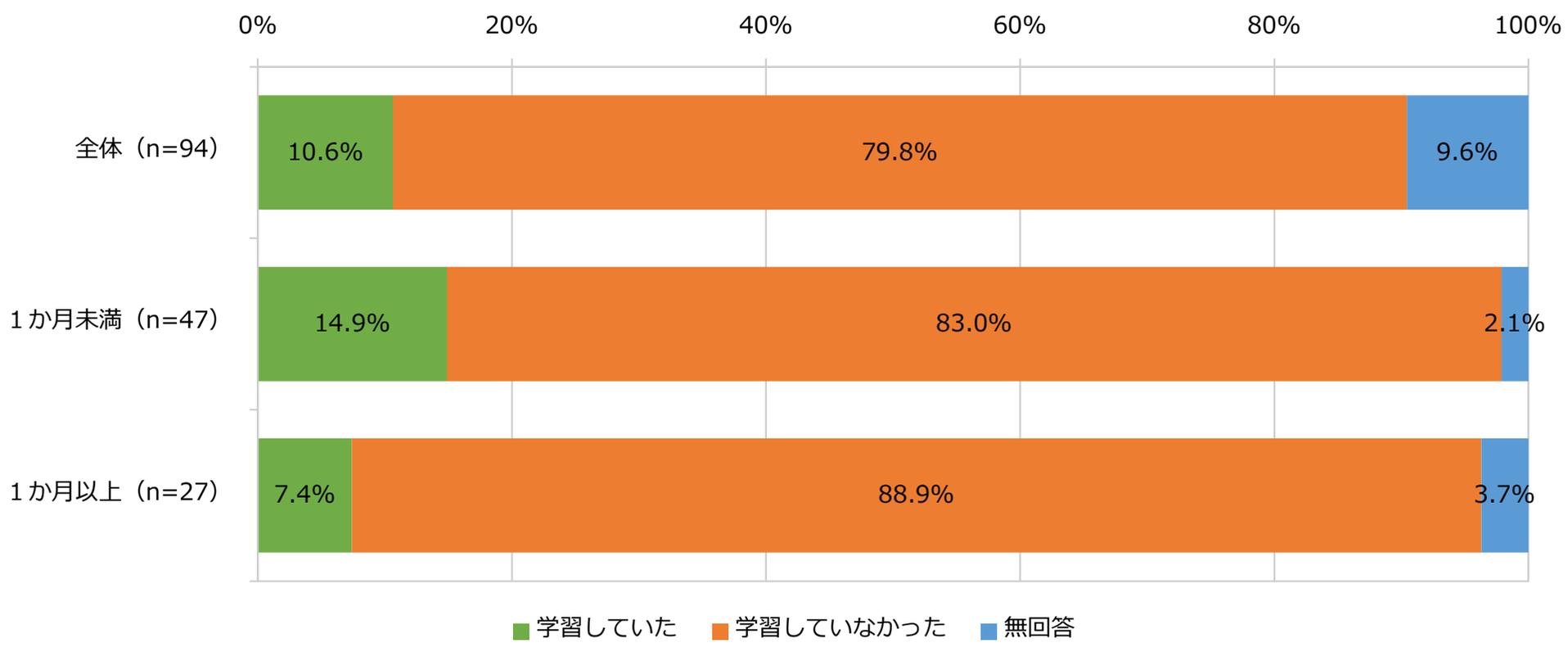
子どもが学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の自宅学習の有無



4. 子どもが学校を休んでいる間の自宅学習の有無

子どもが学校を休んでいる間の自宅学習についてみると、特別支援学校では、1か月未満では「学習していた」が14.9%だが、1か月以上では7.4%となっている。

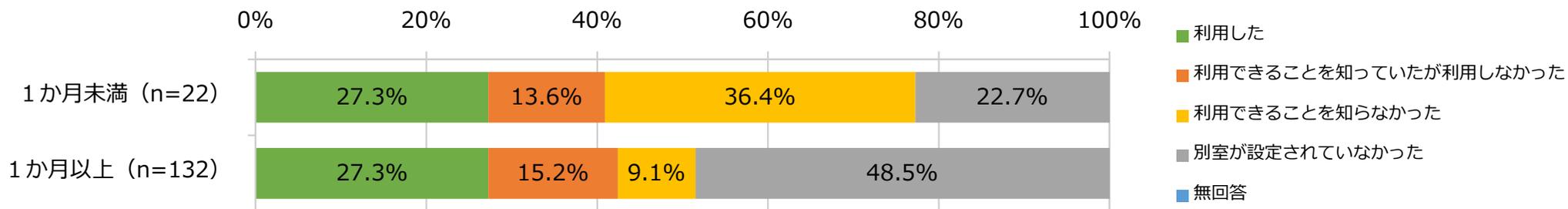
子どもが学校を休んでいる間（休みがちになっている時）の自宅学習の有無



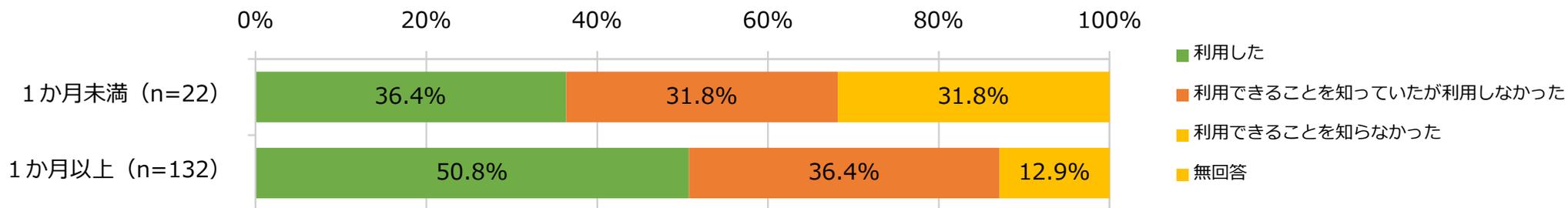
5. 別室、市や町の施設、民間フリースクールの利用（小学校）

不登校児童生徒が利用できる学校内外の施設の利用状況をみると、小学校では、学校内の別室や民間のフリースクールよりも、市町の教育支援センター等を「利用した」割合が高い。さらに学校内の別室についてみると、「利用できることを知らなかった」と「別室が設定されていなかった」がおよそ6割を占める。

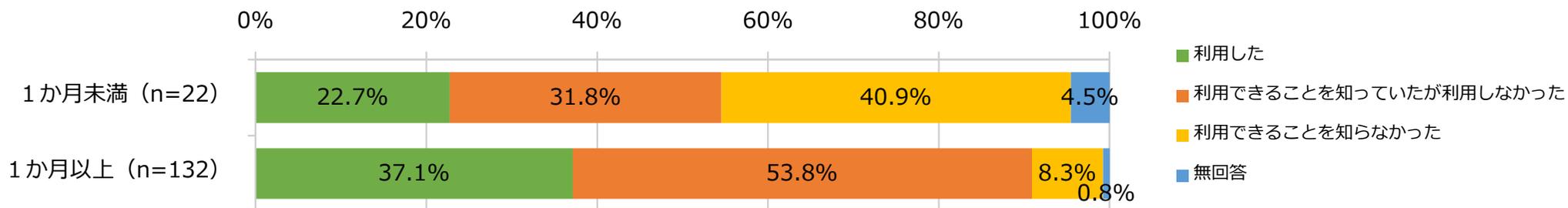
学校内で教室に入れない児童生徒が利用できる「別室（サポートルーム等）」の利用の有無



不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる市町の教育支援センターや教育相談室の利用の有無



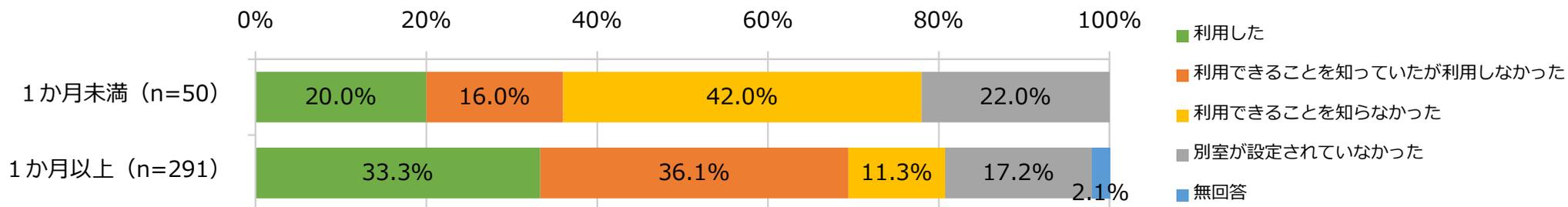
不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる民間のフリースクールの利用の有無



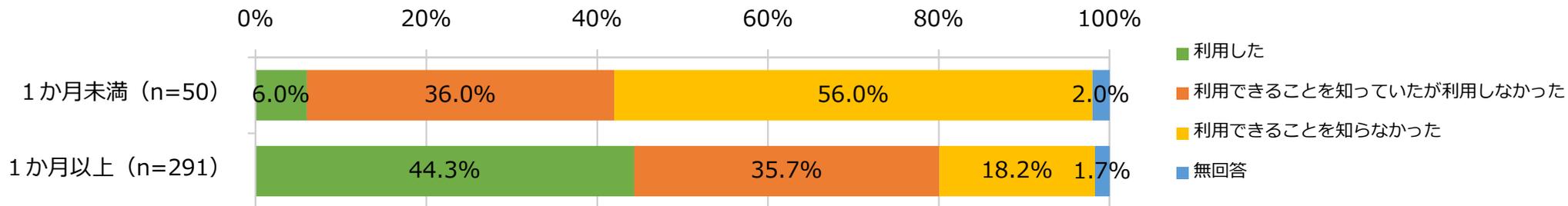
5. 別室、市や町の施設、民間フリースクールの利用（中学校）

不登校児童生徒が利用できる学校内外の施設の利用状況を欠席期間別にみると、中学校では、1か月以上は1か月未満に比べ、別室や施設を利用する割合が高い。一方で、別室や施設を「利用できることを知らなかった」と回答した割合は、1か月未満の方が1か月以上よりも高い。

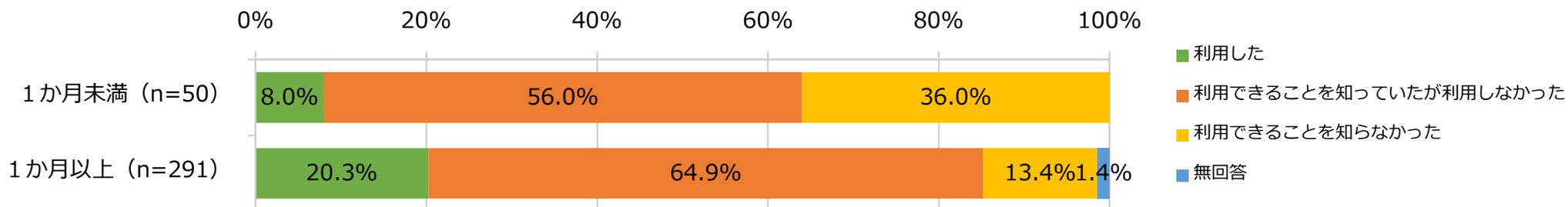
学校内で教室に入れない児童生徒が利用できる「別室（サポートルーム等）」の利用の有無



不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる市町の教育支援センターや教育相談室の利用の有無



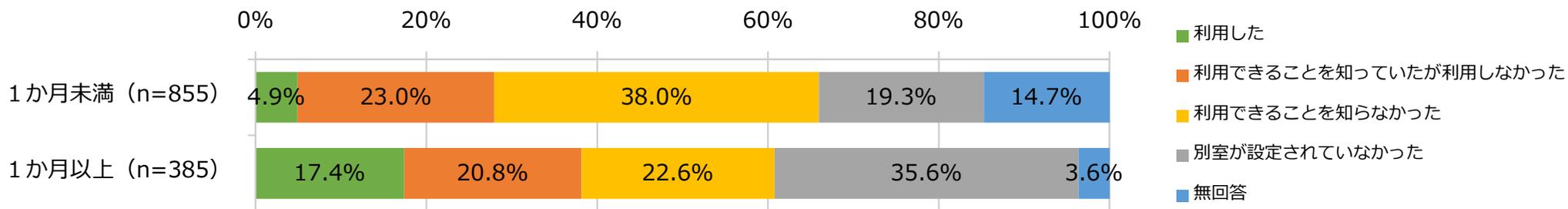
不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる民間のフリースクールの利用の有無



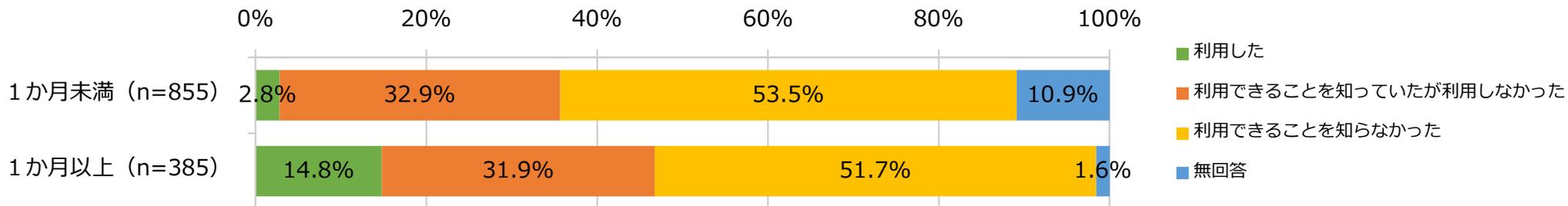
5. 別室、市や町の施設、民間フリースクールの利用（高等学校）

不登校児童が利用できる学校内外の施設の利用状況を欠席期間別にみると、高等学校では、1か月以上は1か月未満よりも利用する傾向にある。民間のフリースクールの利用は少ないが、1か月以上では17.4%が学校内の別室を、14.8%が市町の教育支援センター等を「利用した」と回答している。

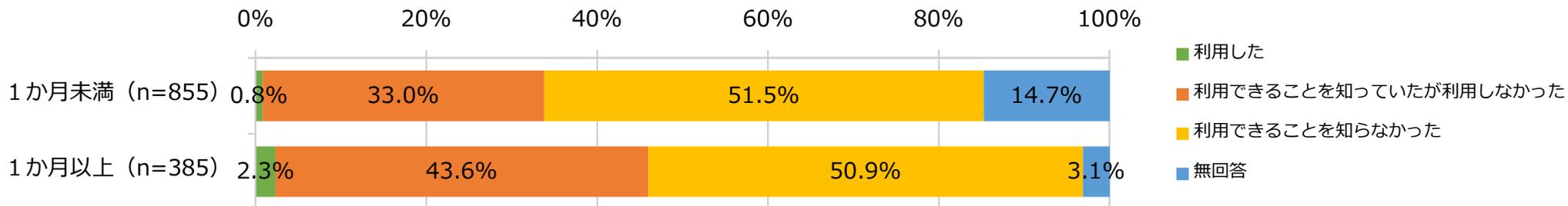
学校内で教室に入れない児童生徒が利用できる「別室（サポートルーム等）」の利用の有無



不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる市町の教育支援センターや教育相談室の利用の有無



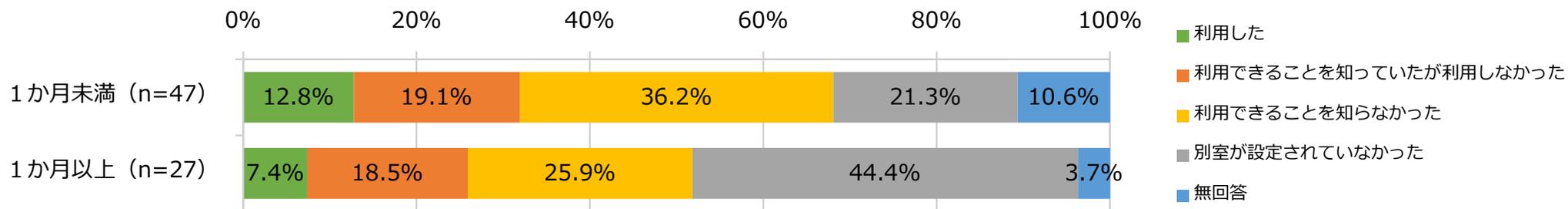
不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる民間のフリースクールの利用の有無



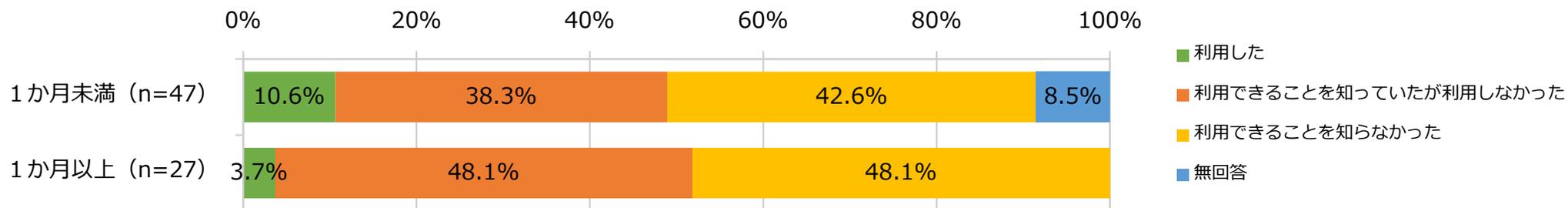
5. 別室、市や町の施設、民間フリースクールの利用（特別支援学校）

不登校児童が利用できる学校内外の施設の利用状況を欠席期間別にみると、特別支援学校では、1か月未満では学校内の別室の利用が12.8%、市町の教育支援センター等では10.6%となっている。1か月以上では民間のフリースクールの利用が11.1%と他と比べて割合が高い。

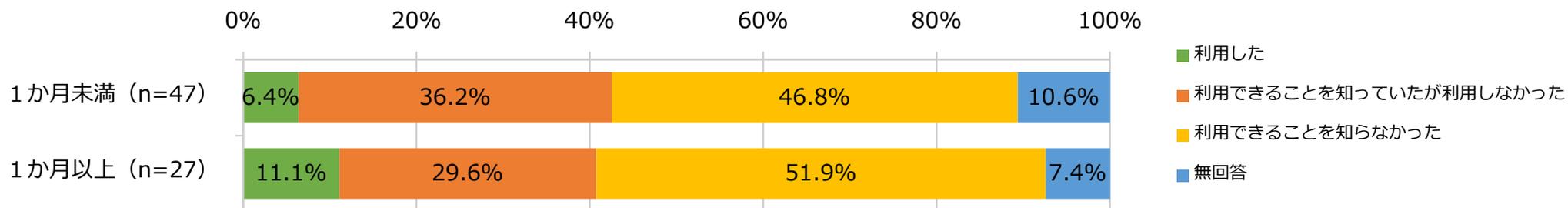
学校内で教室に入れない児童生徒が利用できる「別室（サポートルーム等）」の利用の有無



不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる市町の教育支援センターや教育相談室の利用の有無



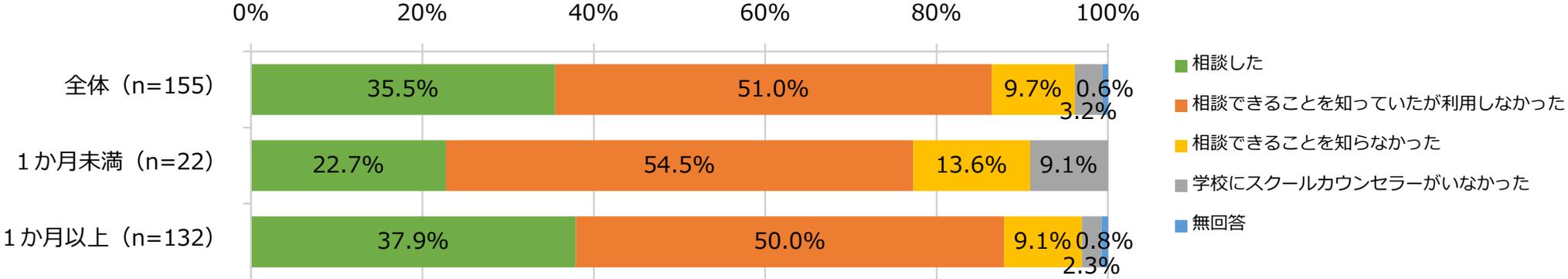
不登校の児童生徒が学習したり、相談したり、体験したりできる民間のフリースクールの利用の有無



6. スクールカウンセラーへの相談（小学校）

スクールカウンセラーへの相談状況についてみると、小学校では、子どもと比べて保護者が「相談した」割合が高い。欠席期間別にみると、1か月以上は1か月未満よりも「相談した」割合が高く、1か月以上の保護者においては68.9%が「相談した」と回答している。

子どものスクールカウンセラーへの相談



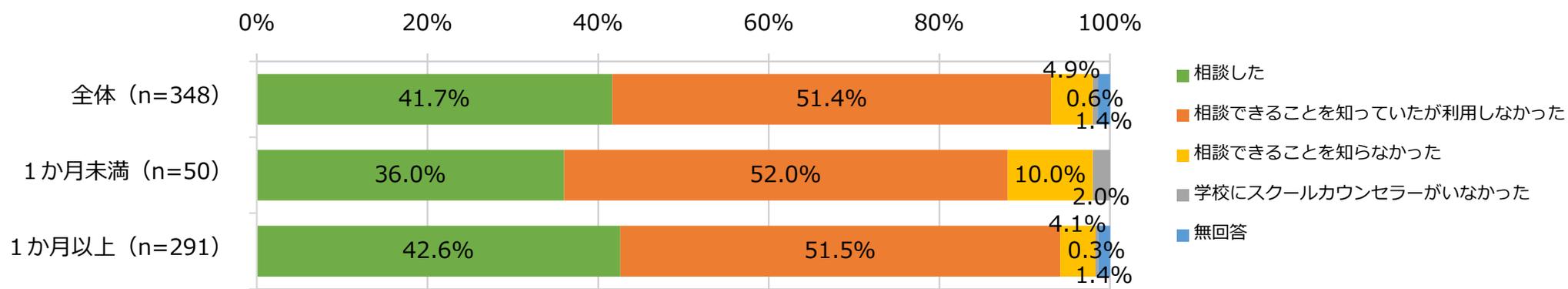
保護者のスクールカウンセラーへの相談



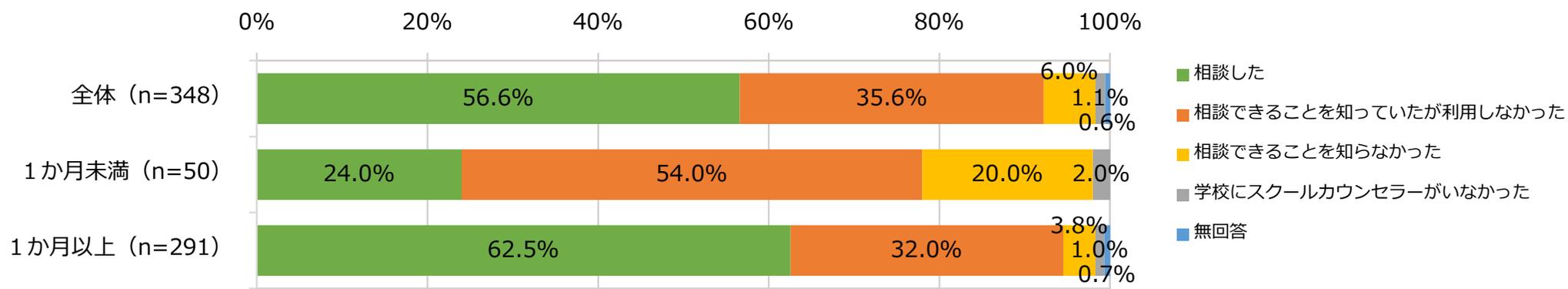
6. スクールカウンセラーへの相談（中学校）

スクールカウンセラーへの相談状況についてみると、中学校の全体では、子どもよりも保護者が「相談した」割合が高い。欠席期間別にみると、子どもの相談は1か月未満は36.0%、1か月以上は42.6%とほぼ同じだが、保護者の相談は1か月未満は24.0%、1か月以上は62.5%と差が大きい。

子どものスクールカウンセラーへの相談



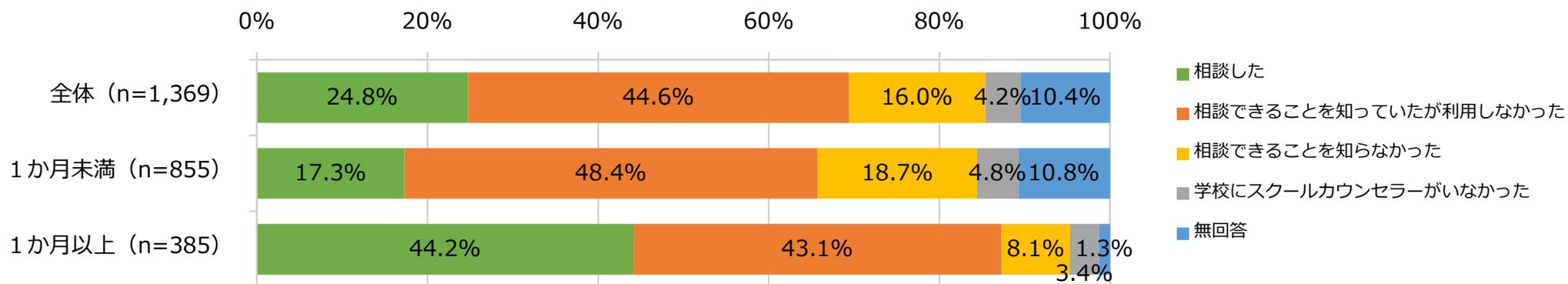
保護者のスクールカウンセラーへの相談



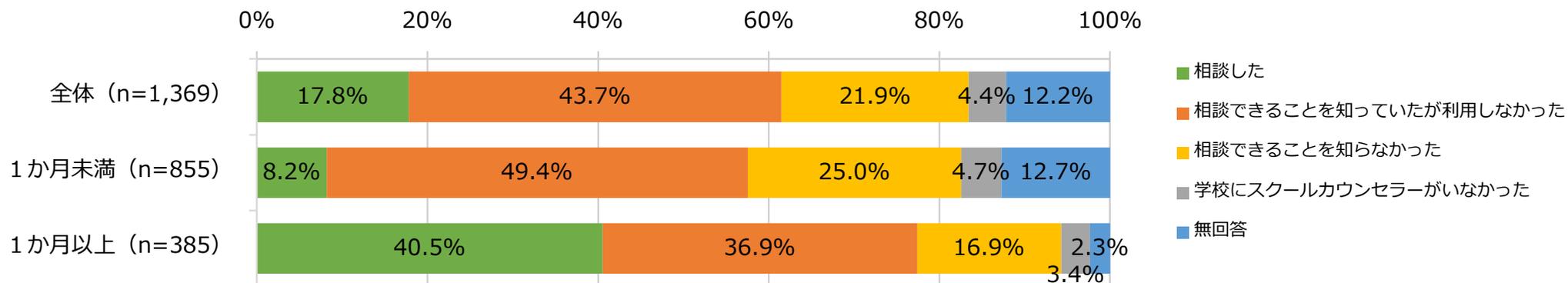
6. スクールカウンセラーへの相談（高等学校）

スクールカウンセラーへの相談状況について欠席期間別にみると、高等学校では、子どもの相談は1か月未満は17.3%、1か月以上は44.2%となっている。保護者の相談は1か月未満は8.2%、1か月以上は40.5%となっている。子ども、保護者共に、欠席期間1か月以上でスクールカウンセラーへ「相談した」割合が高い。

子どものスクールカウンセラーへの相談



保護者のスクールカウンセラーへの相談



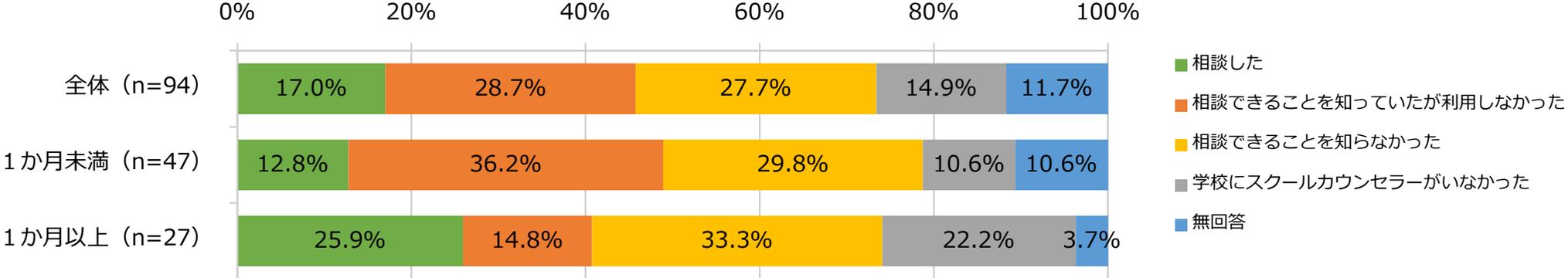
6. スクールカウンセラーへの相談（特別支援学校）

スクールカウンセラーへの相談状況についてみると、特別支援学校では、「相談した」割合は子どもで12.8%、保護者で17.0%である。欠席期間別にみると、1か月以上の保護者では25.9%が「相談した」と回答している。

子どものスクールカウンセラーへの相談



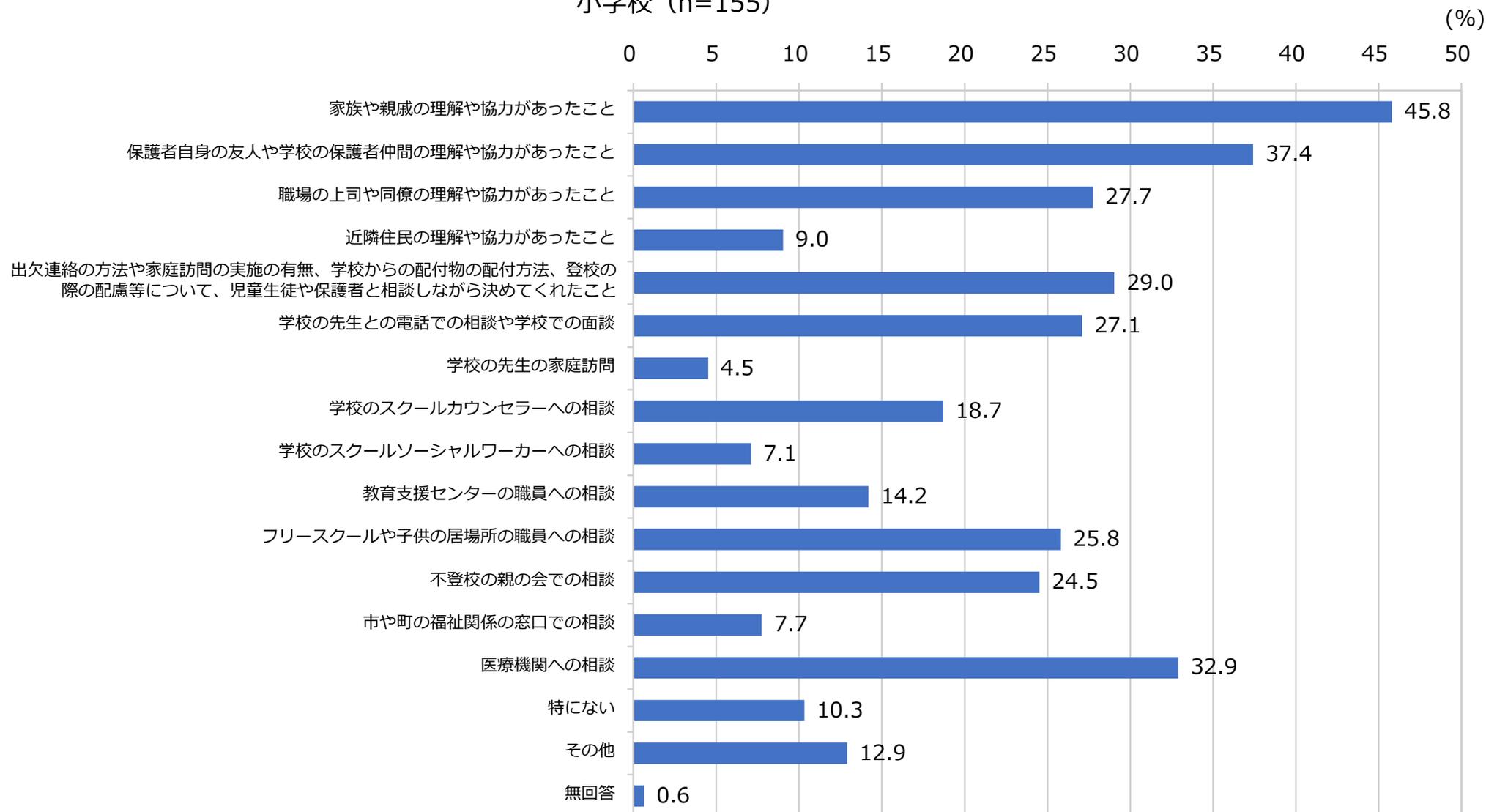
保護者のスクールカウンセラーへの相談



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、小学校では、「家族や親戚の理解や協力があったこと」の割合が45.8%と最も高い。次いで「保護者自身の友人や学校の保護者仲間の理解や協力があったこと（37.4%）」、「医療機関への相談（32.9%）」と続いている。

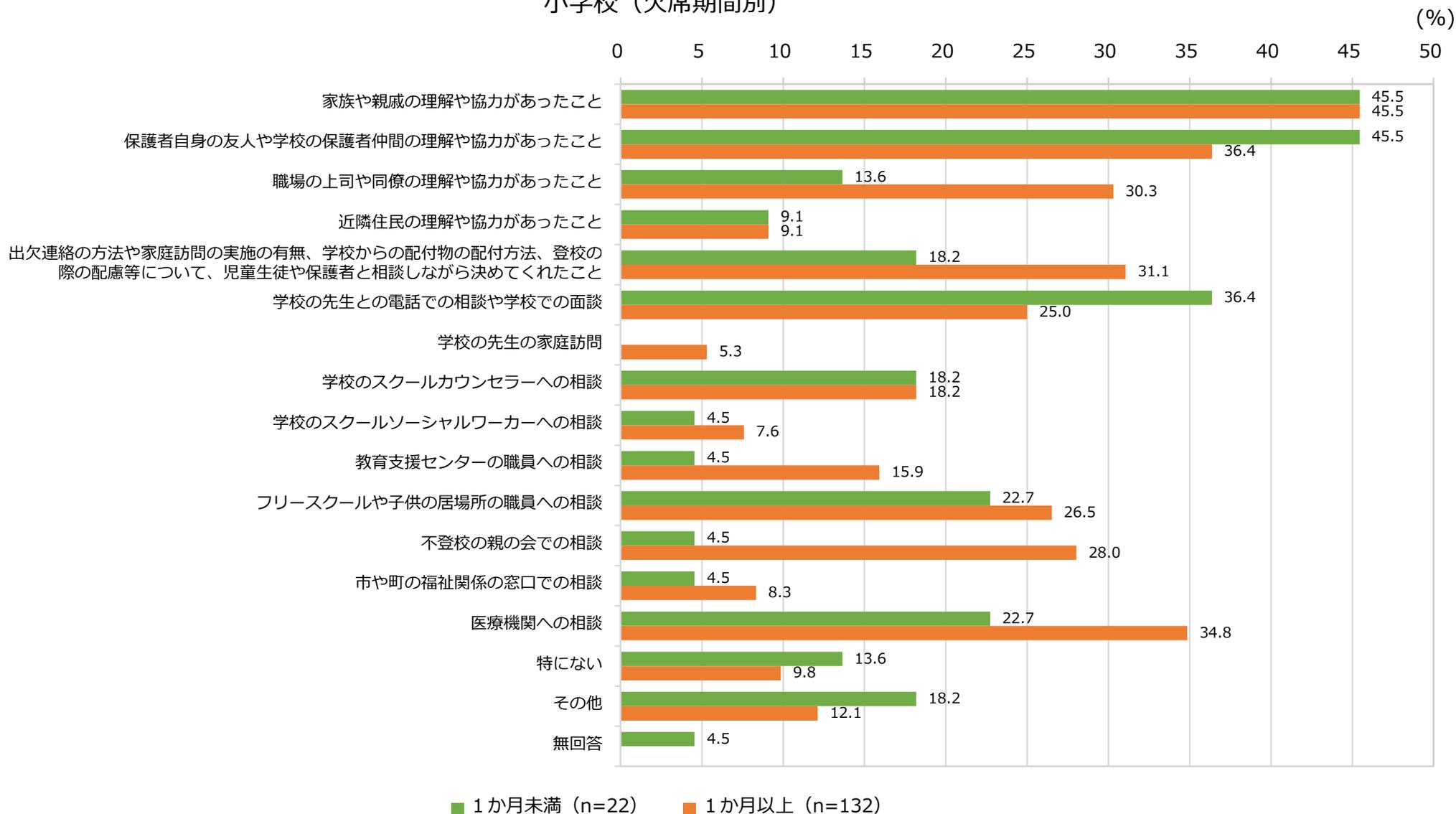
保護者の気持ちの回復や安定につながった支援
小学校 (n=155)



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

欠席期間別に保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、小学校では、1か月以上において「職場の上司や同僚の理解や協力があったこと」「不登校の親の会での相談」の回答割合が1か月未満と比べて高い。

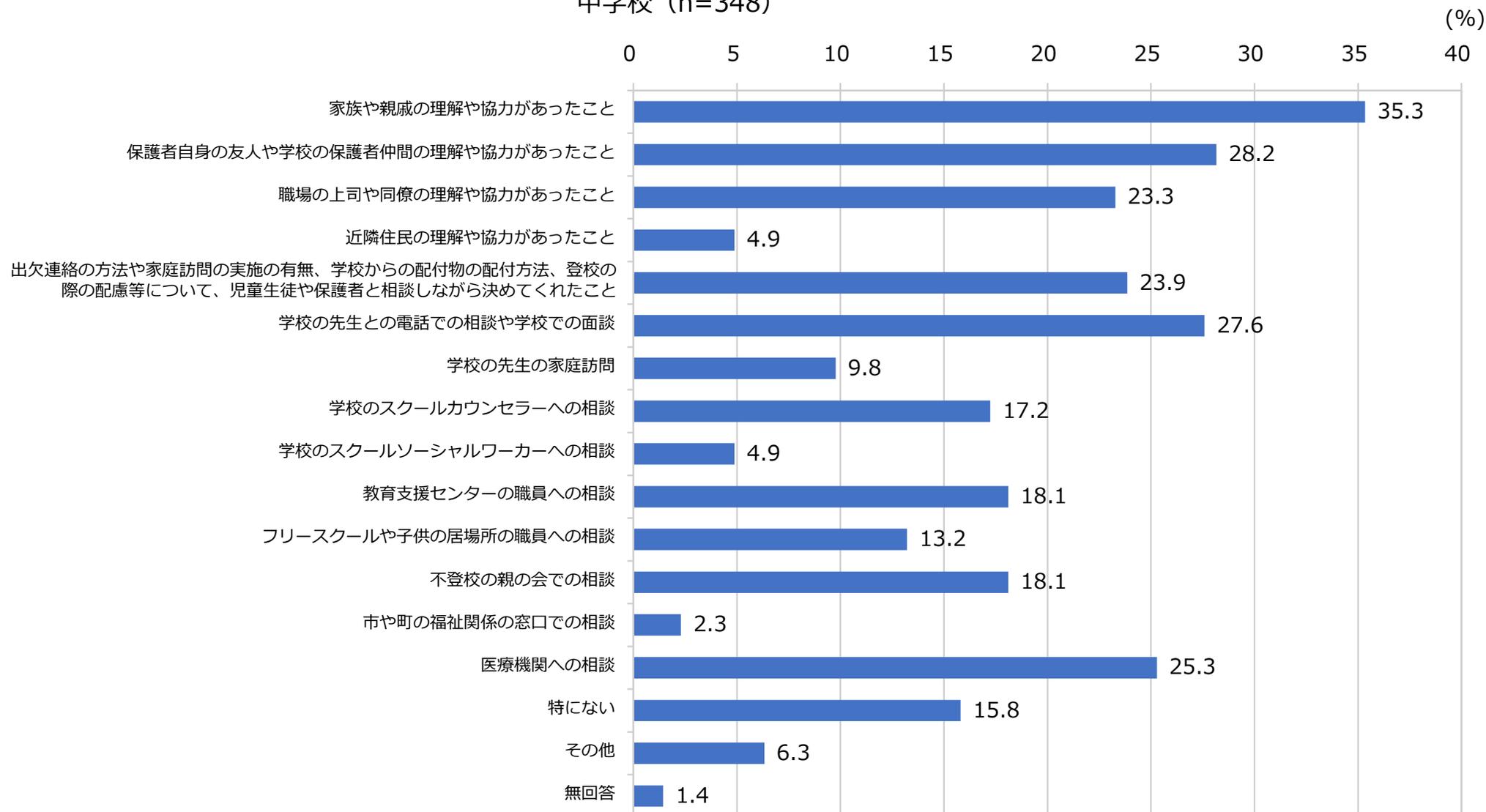
保護者の気持ちの回復や安定につながった支援
小学校（欠席期間別）



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

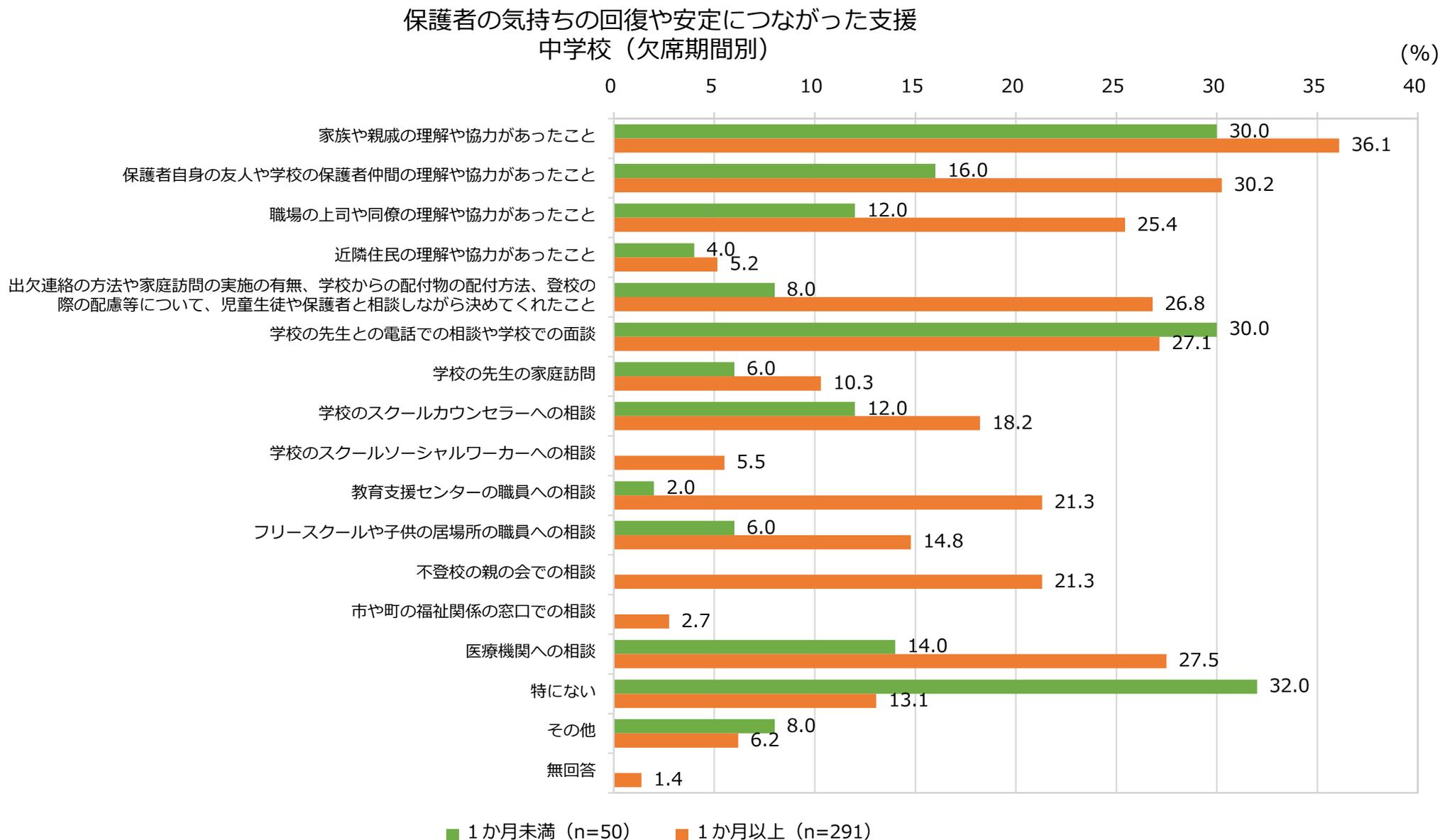
保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、中学校では、「家族や親戚の理解や協力があったこと」の割合が35.3%と最も高い。次いで「保護者自身の友人や学校の保護者仲間の理解や協力があったこと（28.2%）」、「学校の先生との電話での相談や学校での面談（27.6%）」となっている。

保護者の気持ちの回復や安定につながった支援
中学校 (n=348)



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

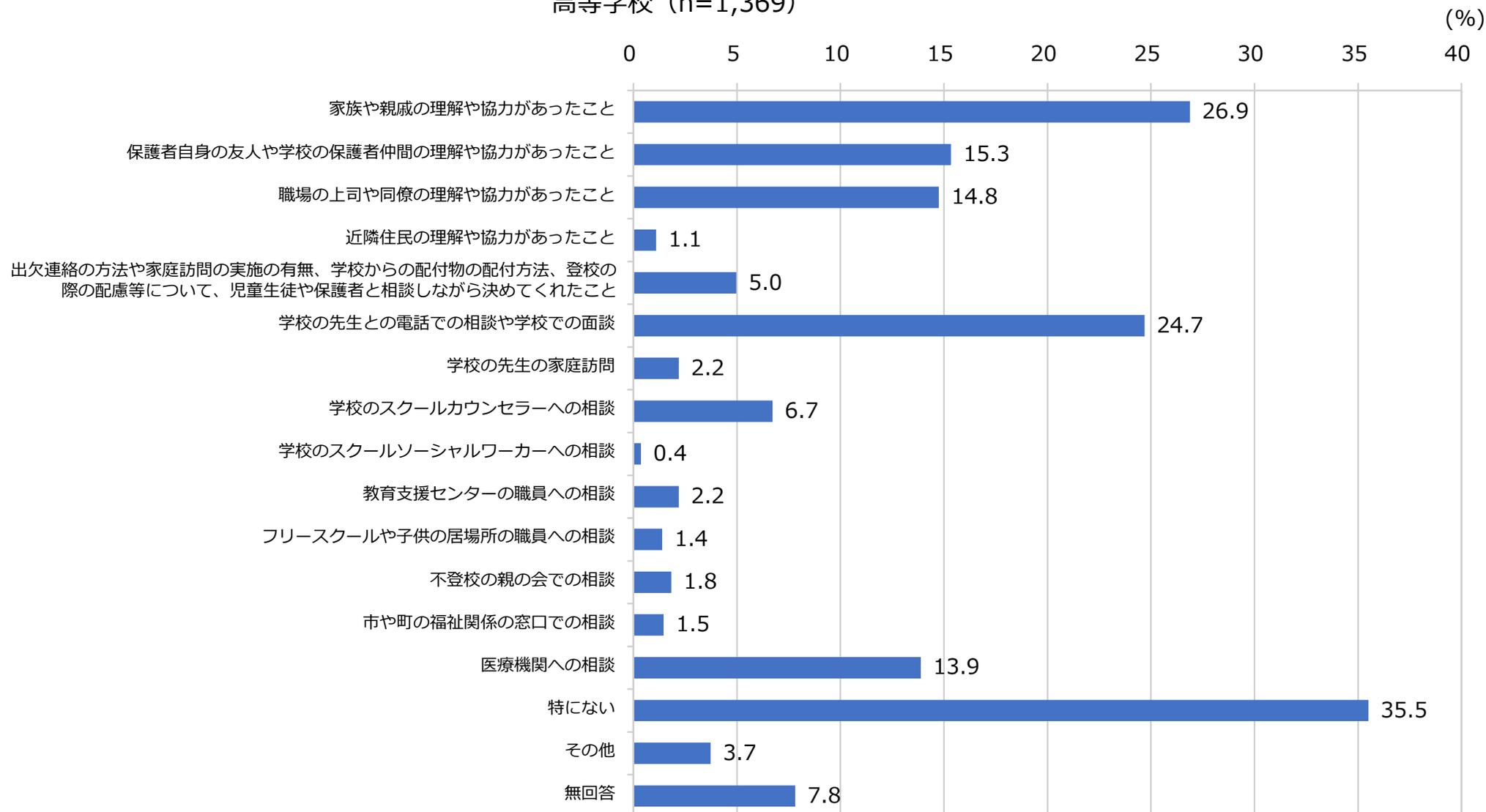
欠席期間別に保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、中学校では、1か月未満は「特にない」と回答した割合が最も高く、次いで「家族や親戚の理解や協力があったこと」となっている。1か月以上では「家族や親戚の理解や協力があったこと」の割合が最も高く、次いで「保護者自身の友人や学校の保護者仲間の理解や協力があったこと」となっている。



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、高等学校では、「特にない」の割合が35.5%と最も高い。次いで「家族や親戚の理解や協力があったこと（26.9%）」、「学校の先生との電話での相談や学校での面談（24.7%）」と続いている。

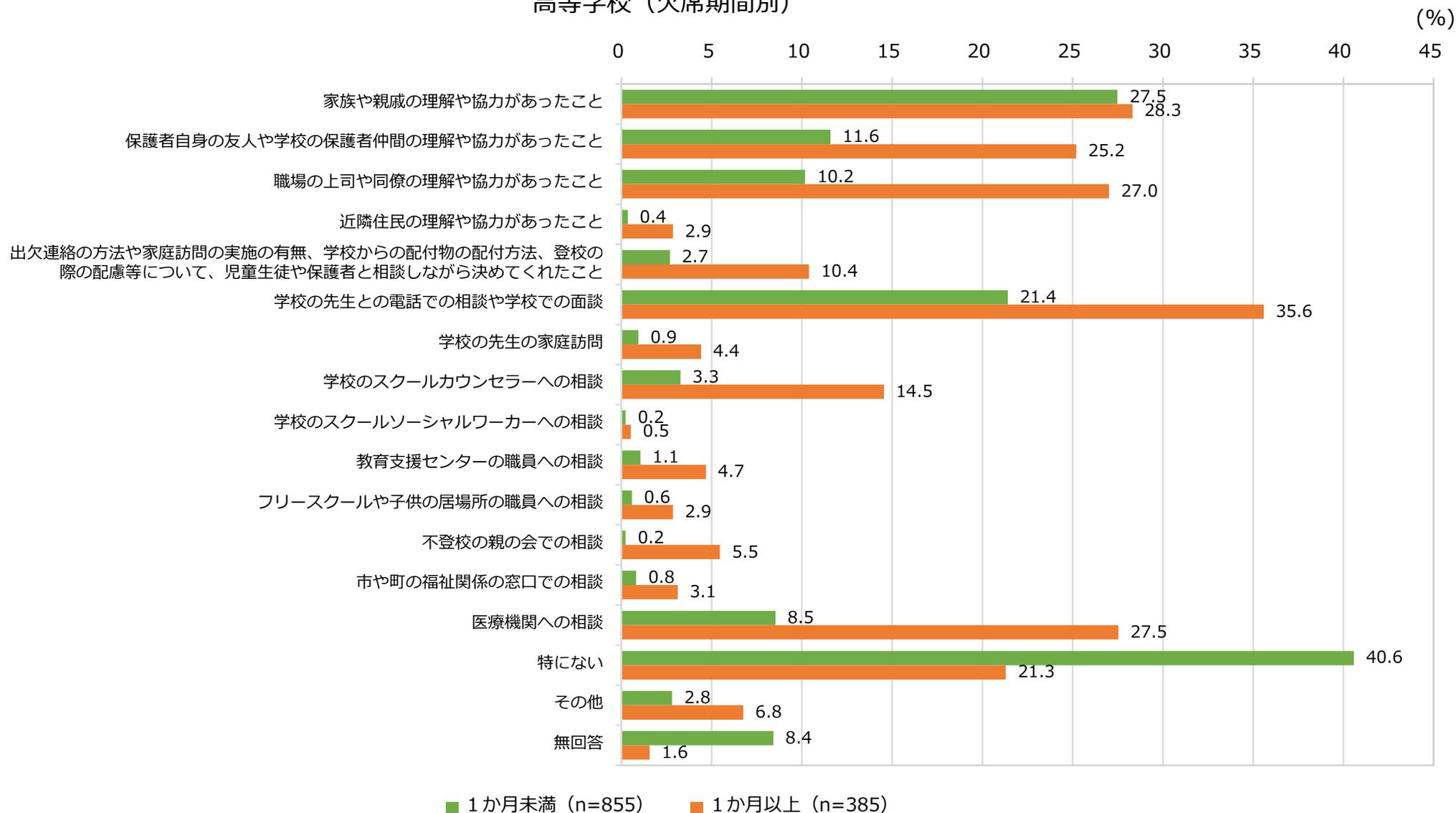
保護者の気持ちの回復や安定につながった支援
高等学校 (n=1,369)



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

欠席期間別に保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、高等学校では、1か月未満は「特にない」と回答した割合が最も高く、次いで「家族や親戚の理解や協力があったこと」となっている。1か月以上では「学校の先生との電話での相談や学校での面談」が最も高い。「特にない」の割合は2割程度と1か月未満に比べて低い。

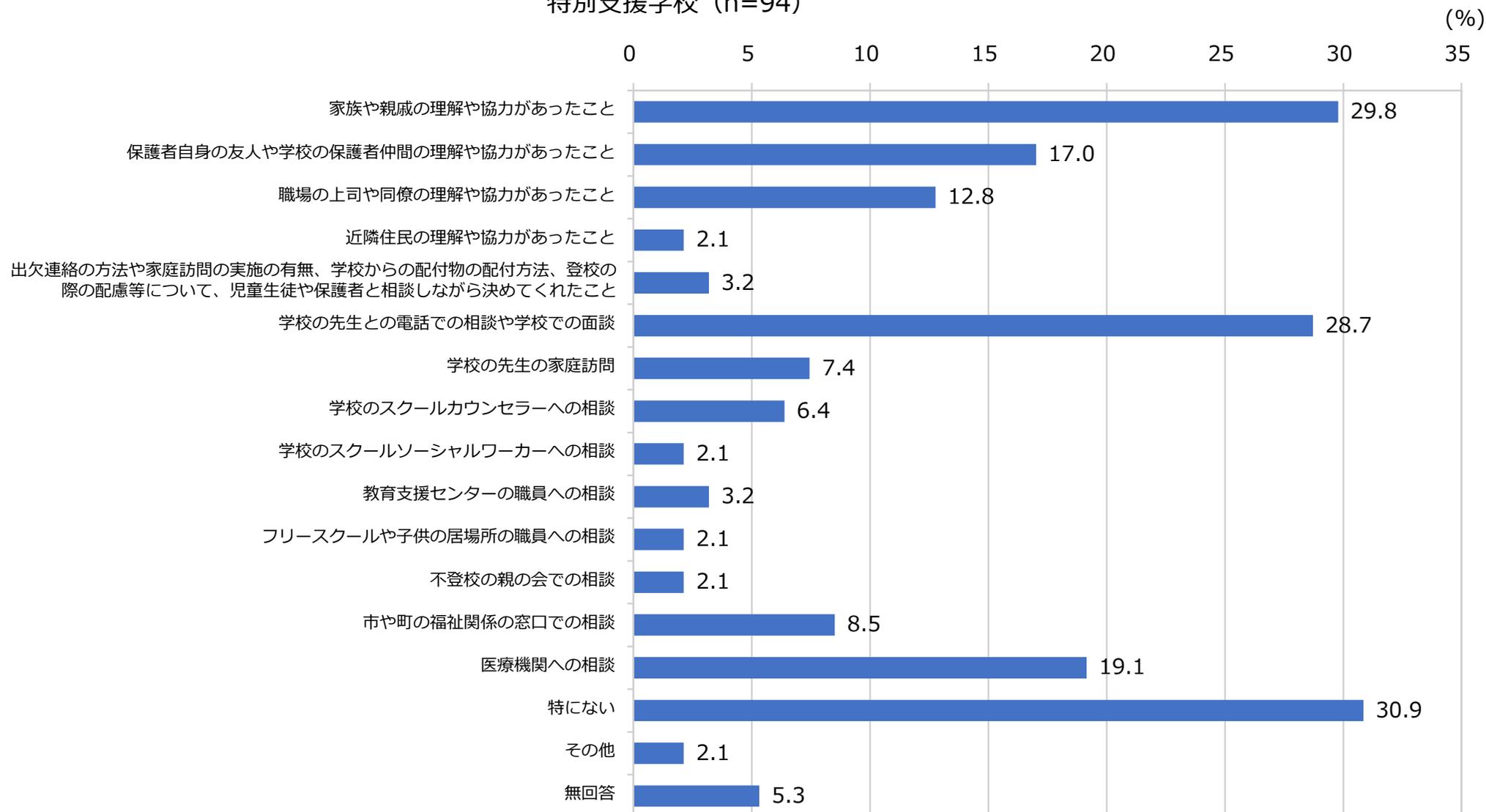
保護者の気持ちの回復や安定につながった支援
高等学校（欠席期間別）



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、特別支援学校では、「特にない」の割合が30.9%と最も高い。次いで「家族や親戚の理解や協力があったこと（29.8%）」、「学校の先生との電話での相談や学校での面談（28.7%）」と続いている。

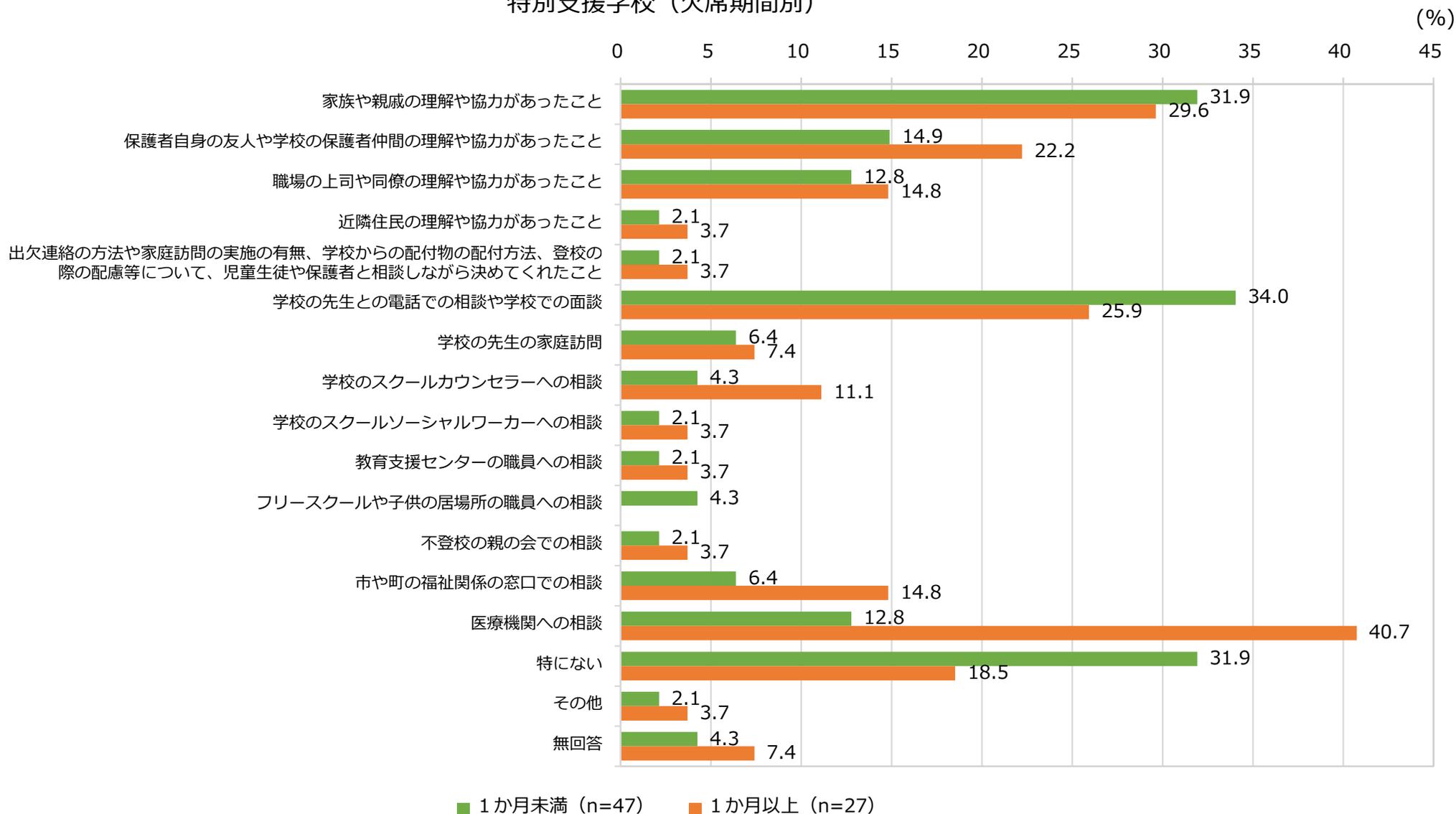
保護者の気持ちの回復や安定につながった支援
特別支援学校（n=94）



7. 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援

欠席期間別に保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、特別支援学校では、1か月未満は「学校の先生との電話での相談や学校での面談」が最も高く、次いで「家族や親戚の理解や協力があったこと」となっている。1か月以上では「医療機関への相談」が最も高く、次いで「家族や親戚の理解や協力があったこと」となっている。

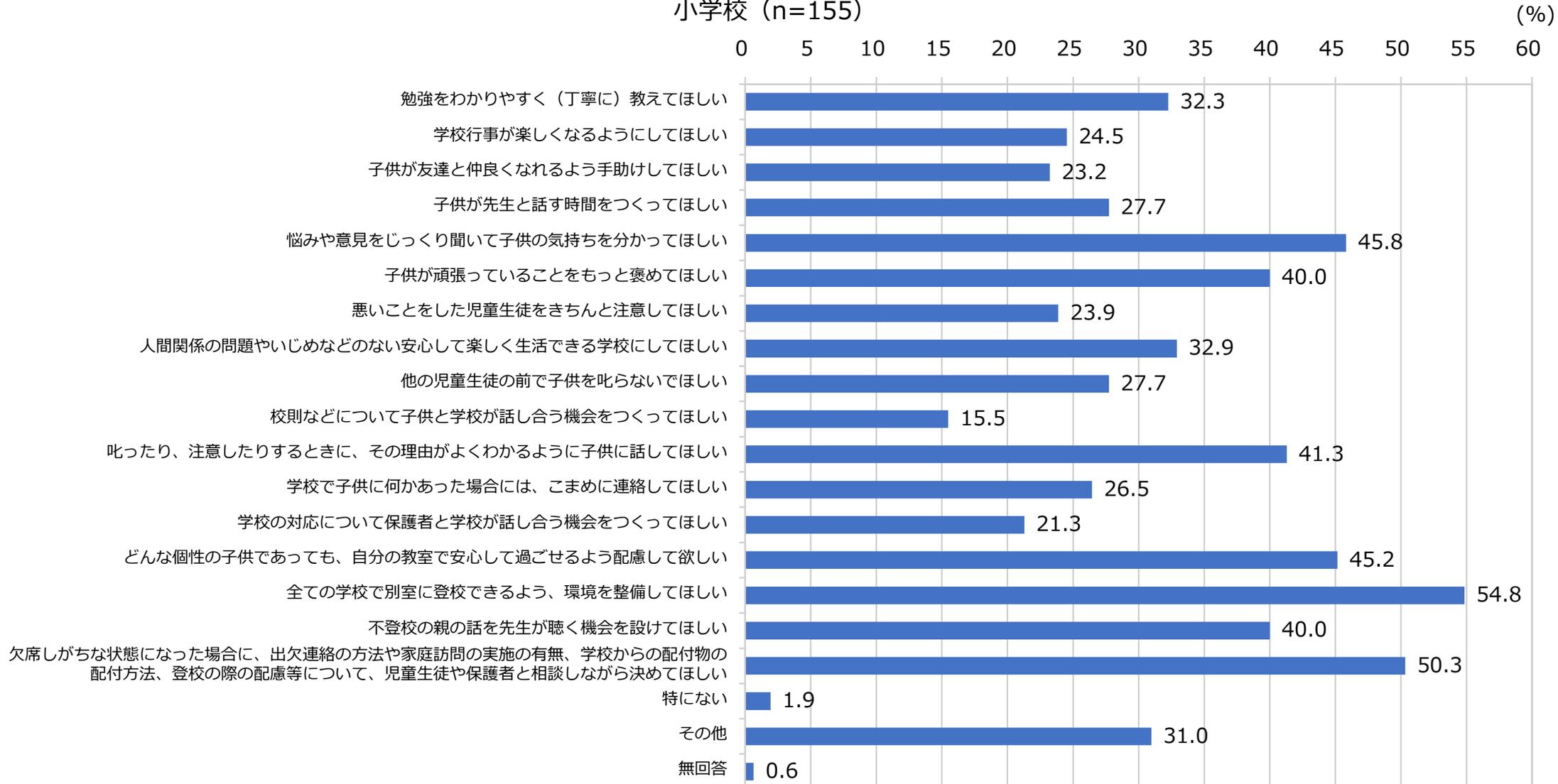
保護者の気持ちの回復や安定につながった支援
特別支援学校（欠席期間別）



8. 学校や先生に期待すること

学校や先生に期待することについてみると、小学校では、「全ての学校で別室に登校できるよう、環境を整備してほしい」の割合が54.8%と最も高い。次いで、「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」が50.3%となっている。

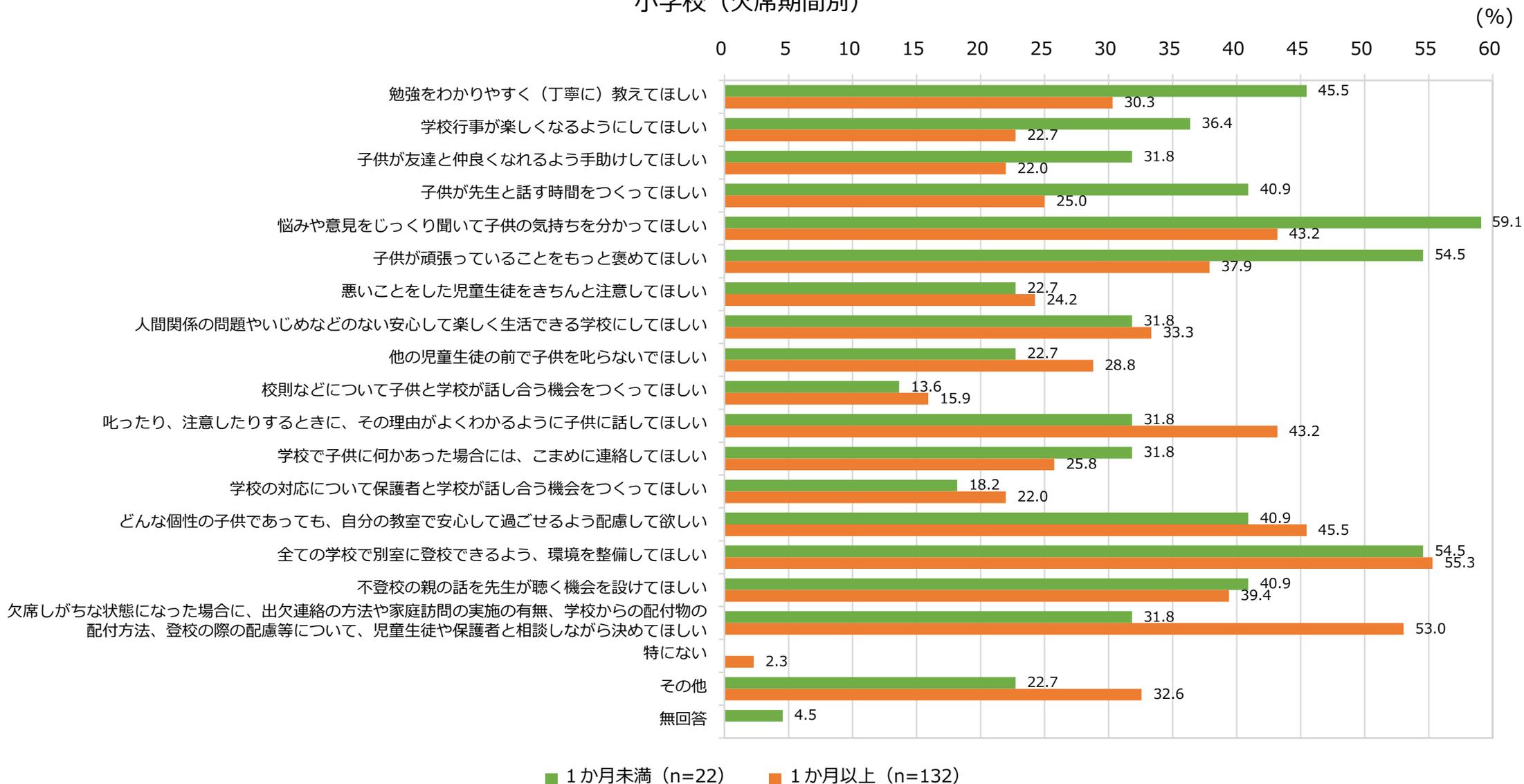
子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
小学校 (n=155)



8. 学校や先生に期待すること

欠席期間別に学校や先生に期待することについてみると、小学校では、1か月以上で「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」が55.3%と1か月未満と比べて割合が高い。

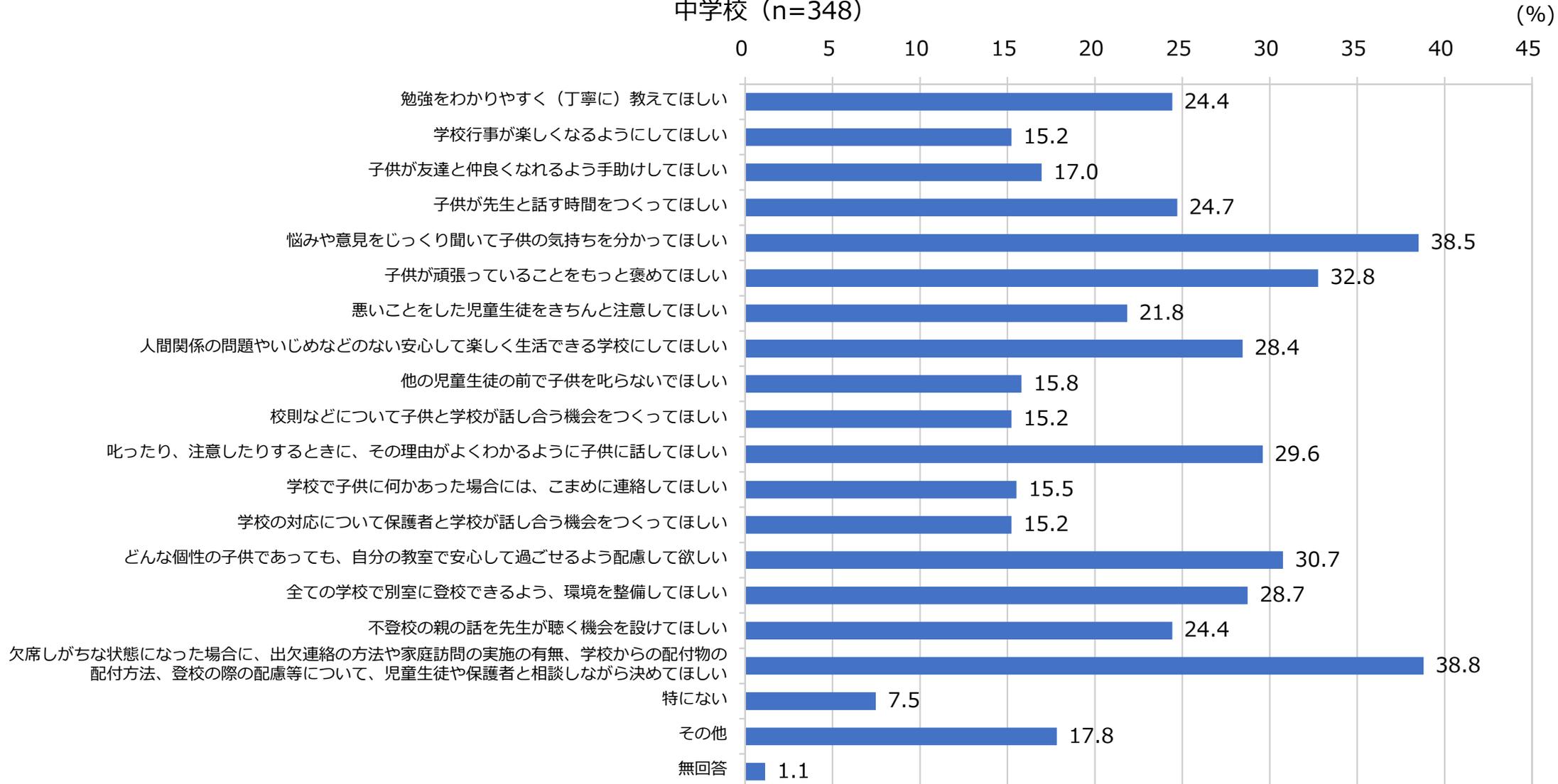
子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
小学校（欠席期間別）



8. 学校や先生に期待すること

学校や先生に期待することについてみると、中学校では、「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」の割合が38.8%と最も高く、「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かってほしい（38.5%）」が続く。

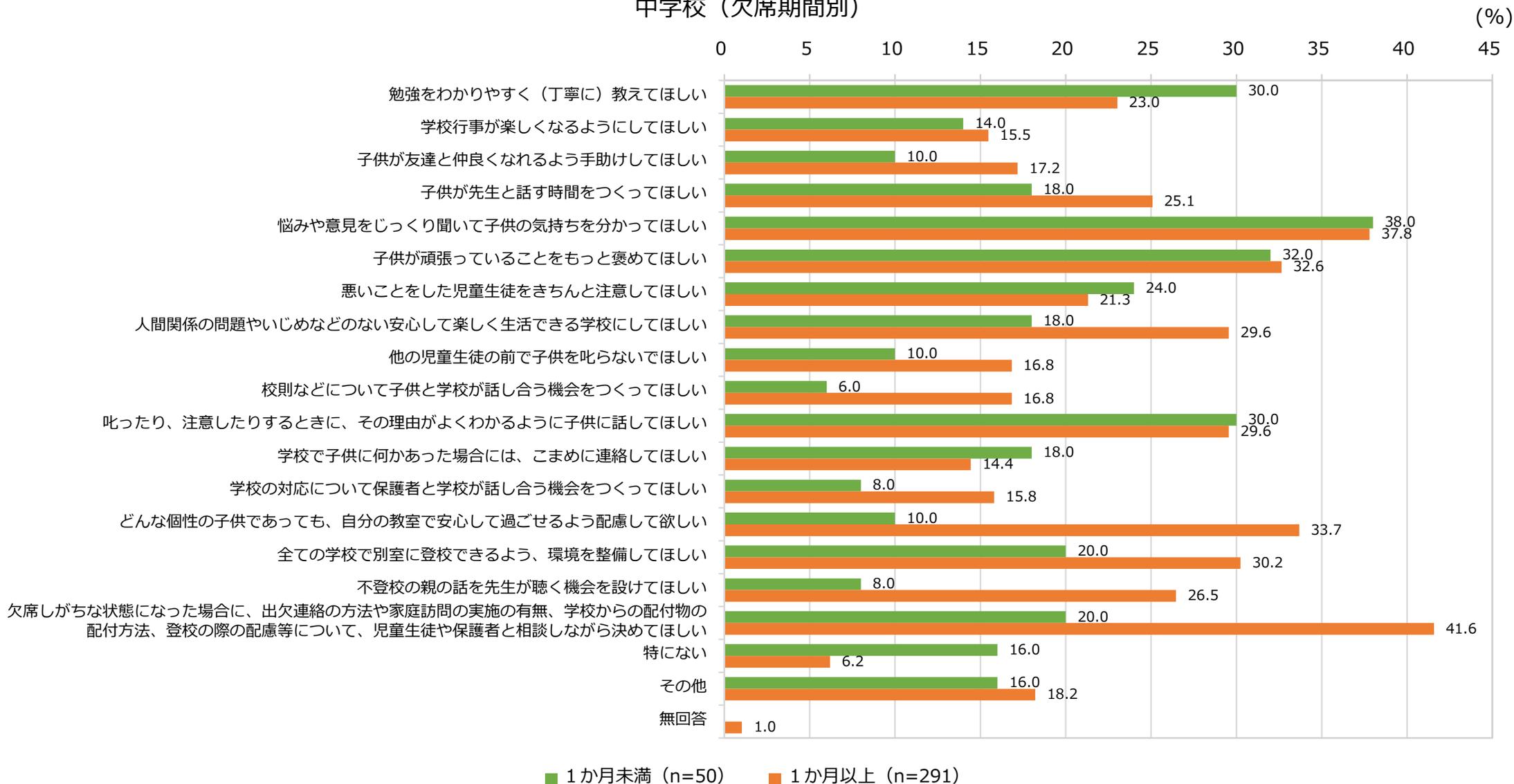
子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
中学校 (n=348)



8. 学校や先生に期待すること

欠席期間別に学校や先生に期待することについてみると、中学校では、1か月以上では1か月未満と比べて「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」「どんな個性の子供であっても、自分の教室で安心して過ごせるよう配慮して欲しい」の割合が高い。

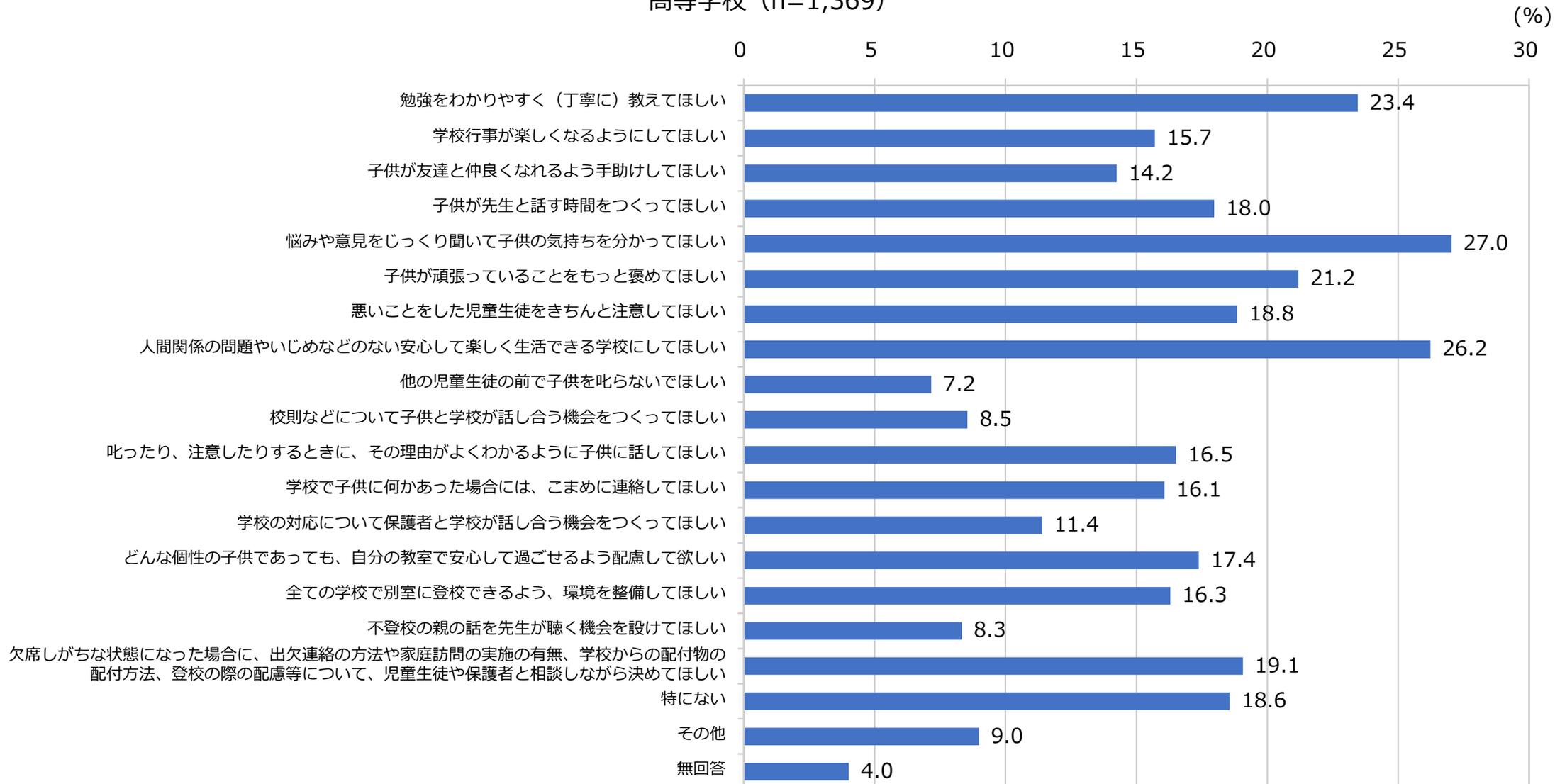
子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
中学校（欠席期間別）



8. 学校や先生に期待すること

学校や先生に期待することについてみると、高等学校では、「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かってほしい」の割合が27.0%と最も高い。次いで、「人間関係の問題やいじめなどのない安心して楽しく生活できる学校にしてほしい（26.2%）」、「勉強をわかりやすく（丁寧に）教えてほしい（23.4%）」と続いている。

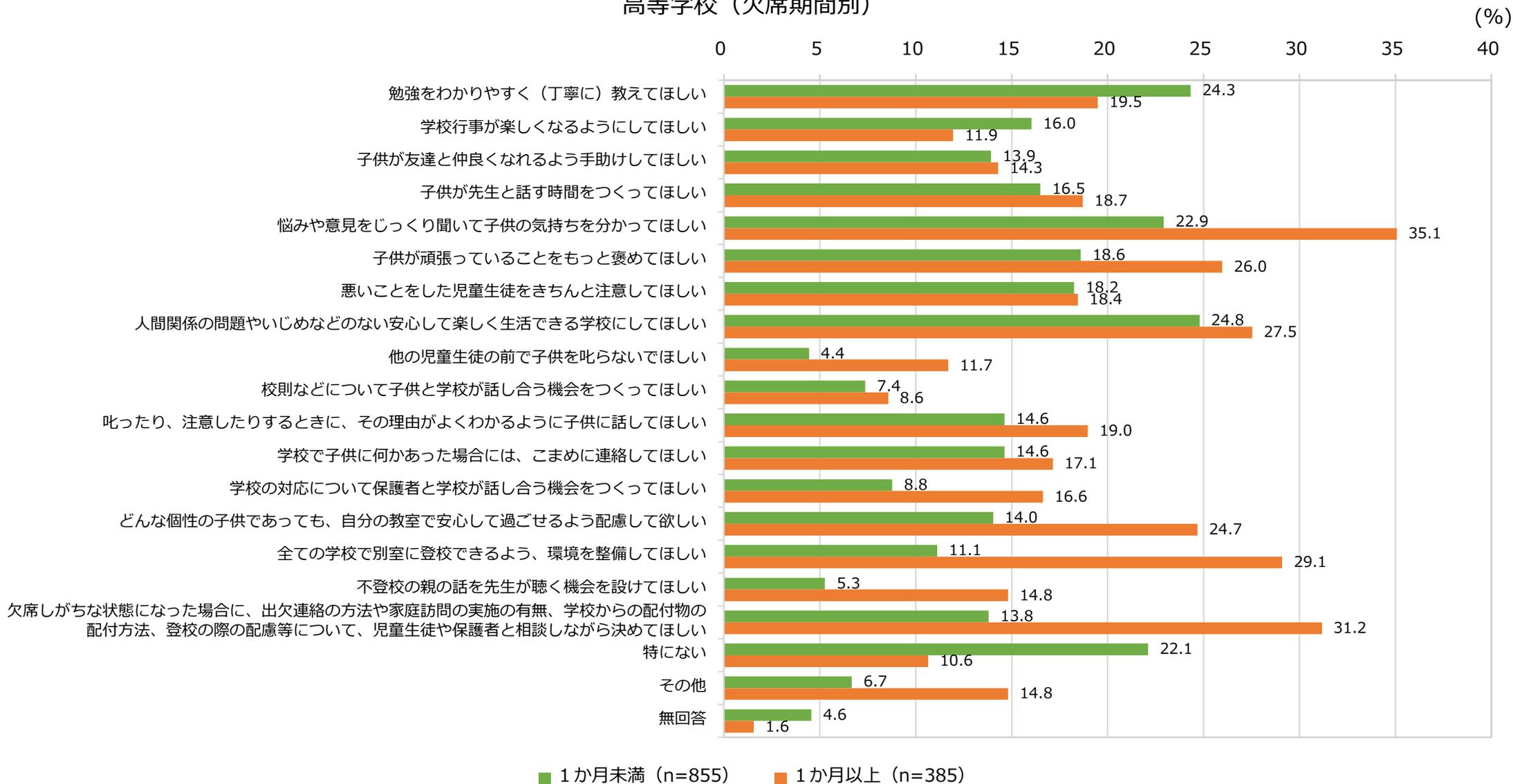
子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
高等学校（n=1,369）



8. 学校や先生に期待すること

欠席期間別に学校や先生に期待することについてみると、高等学校では、1か月以上では1か月未満と比べて「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かってほしい」「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」「全ての学校で別室に登校できるよう、環境を整備してほしい」等の割合が高い。

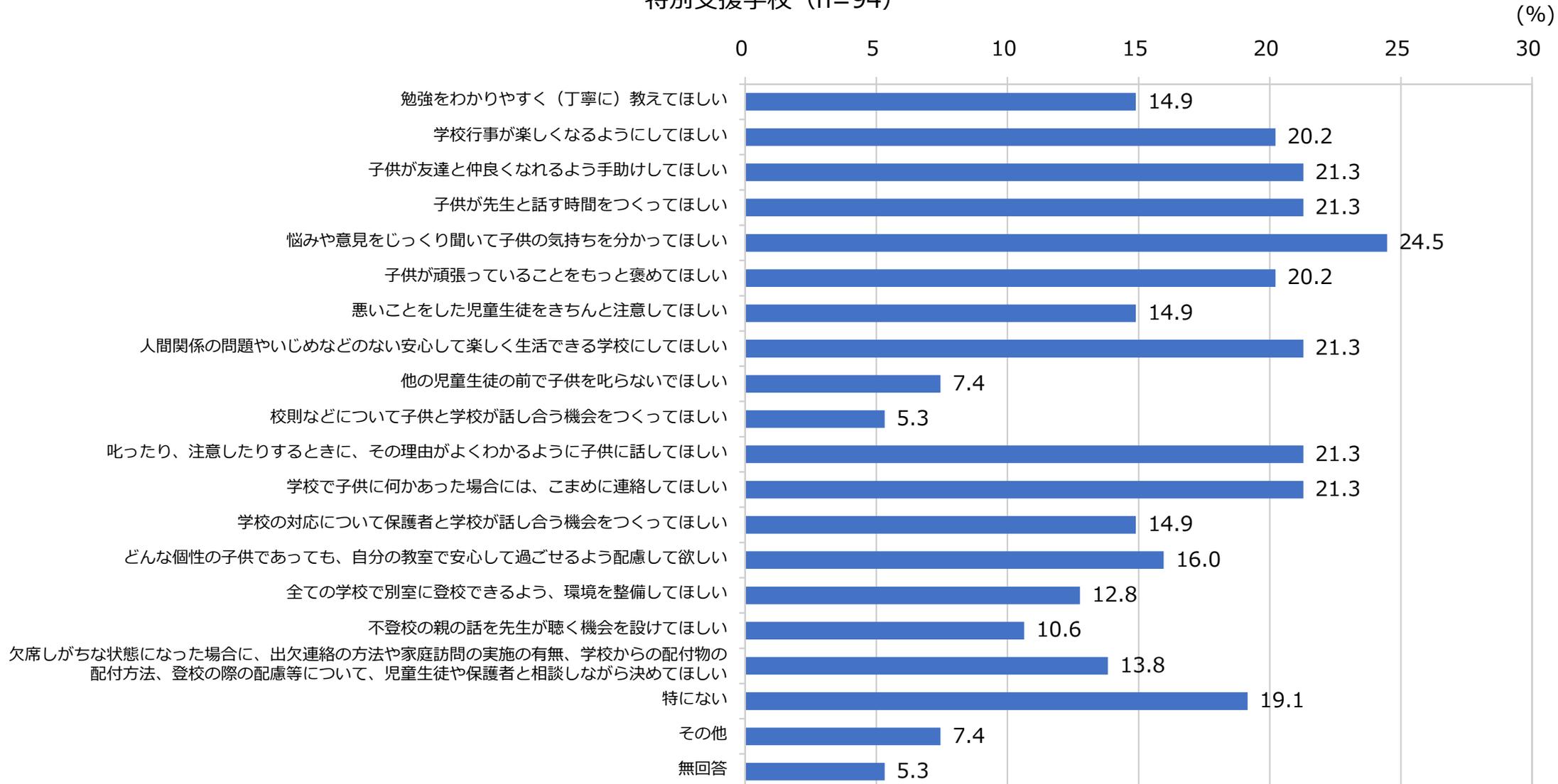
子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
高等学校（欠席期間別）



8. 学校や先生に期待すること

学校や先生に期待することについてみると、特別支援学校では、「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かかってほしい」の割合が24.5%と最も高い。次いで、「子供が友達と仲良くなれるよう手助けしてほしい」、「子供が先生と話す時間を作ってほしい」が続く。

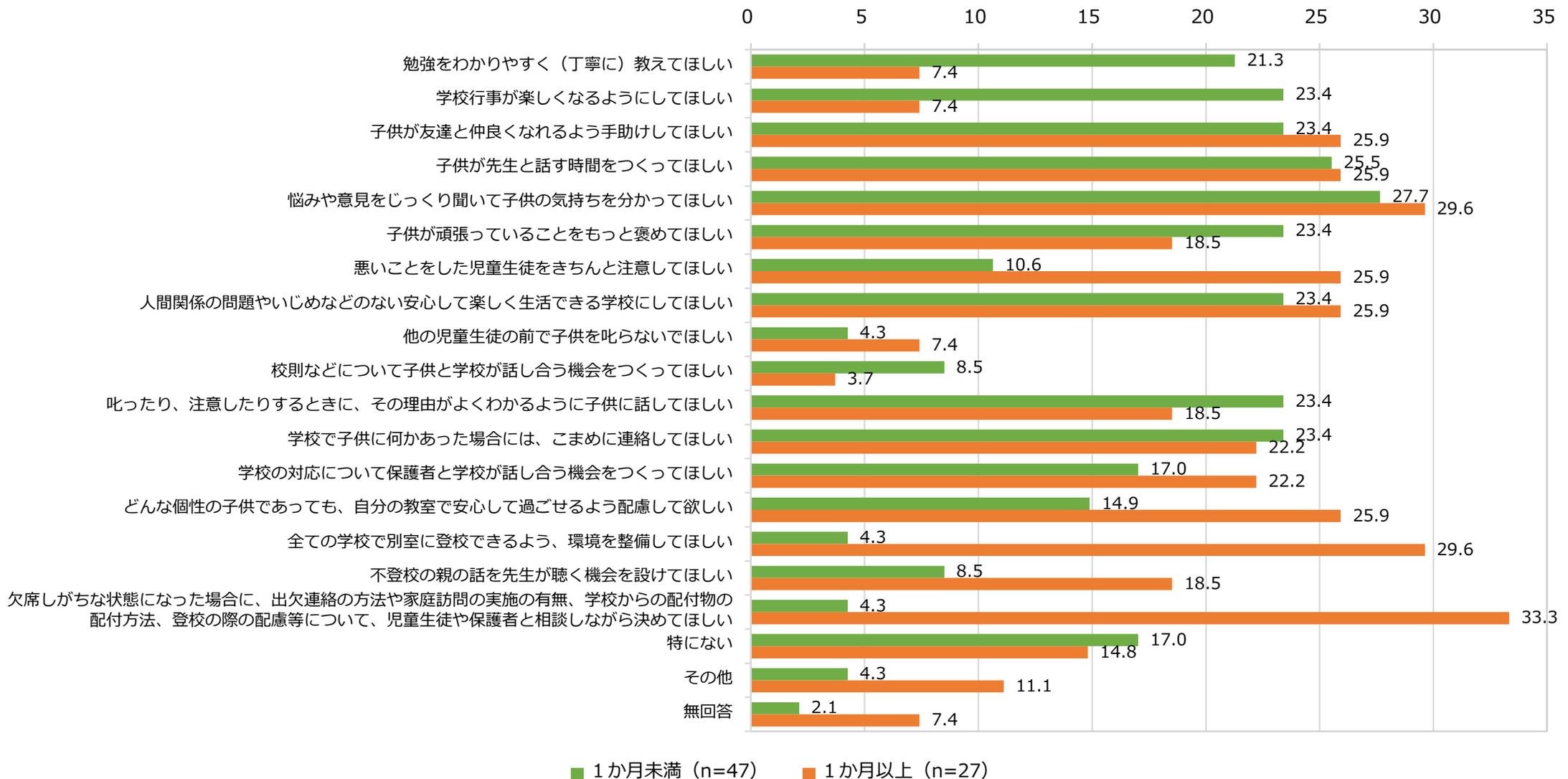
子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
特別支援学校 (n=94)



8. 学校や先生に期待すること

欠席期間別に学校や先生に期待することについてみると、特別支援学校では、1か月未満で「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かってほしい」の割合が最も高く、1か月以上では33.3%が欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」と回答している。

子どもにとって学校が安心して学んだり生活できたりする場所になるために、学校や先生に期待すること
特別支援学校（欠席期間別）



まとめ

- 子どもが学校を休むようになったきっかけは、小学校は「先生との関係」「学校やクラスの雰囲気」、中学校では「学校やクラスの雰囲気」「友達との人間関係」「頭痛や腹痛等の身体の不調」、高等学校、特別支援学校では「頭痛や腹痛等の身体の不調」の割合が高い。高等学校で1か月以上欠席している子どもは、「学校やクラスの雰囲気」の割合も高い。
- 学校を休んでいる間の子どもの様子は、小学校と特別支援学校では、「心が安定していた」の割合が高い。中学校では欠席期間1か月未満で「原因がはっきりしない頭痛、腹痛、発熱等の身体の不調があった」、1か月以上では「インターネットやゲームを長時間していた」の割合が高い。高等学校では、「原因がはっきりしない頭痛、腹痛、発熱等の身体の不調があった」の割合が最も高く、1か月以上では「落ち込んだり悩んだりしていた」「インターネットやゲームを長時間していた」の割合も高い。
⇒学校段階が上がるほど、休むようになったきっかけや休んでいる時の様子として「身体の不調」の割合が高くなり、特に高等学校で顕著となる。
- 自宅学習については、いずれの学校種においても、欠席期間が1か月未満と比べて1か月以上の方が、「学習していなかった」割合が高い。
- 不登校児童が利用できる学校内外の施設の利用状況は、小中学校と比べて高等学校、特別支援学校の利用割合が低い。また、欠席期間が1か月未満と比べて1か月以上の方が、利用割合が高い。
- スクールカウンセラーへの相談状況は、いずれの学校種においても、子どもより保護者が相談した割合が高い。また、他の学校種に比べて高等学校の相談割合が低い。また、欠席期間が1か月未満と比べて1か月以上の方が、相談割合が高い。
⇒欠席期間が長い方が自宅学習はしない一方、学内外の施設やスクールカウンセラーの利用割合は高くなる。
- 保護者の気持ちの回復や安定につながった支援についてみると、小中学校では「家族や親戚の理解や協力があったこと」の割合が高い。高等学校では、欠席期間1か月未満は「特にない」、1か月以上では「学校の先生との電話での相談や学校での面談」の割合が高い。特別支援学校では、「特にない」「家族や親戚の理解や協力があったこと」「学校の先生との電話での相談や学校での面談」の割合が高い。
- 学校や先生に期待することは、小学校では、「全ての学校で別室に登校できるよう、環境を整備してほしい」「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」、中学校では、「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かってほしい」の割合が高い。高等学校では、「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かってほしい」「人間関係の問題やいじめなどのない安心して楽しく生活できる学校にしてほしい」「勉強をわかりやすく（丁寧に）教えてほしい」の割合が高く、1か月以上では「欠席しがちな状態になった場合に、出欠連絡の方法や家庭訪問の実施の有無、学校からの配付物の配付方法、登校の際の配慮等について、児童生徒や保護者と相談しながら決めてほしい」「全ての学校で別室に登校できるよう、環境を整備してほしい」等の割合も高い。特別支援学校では、「悩みや意見をじっくり聞いて子供の気持ちを分かってほしい」「子供が友達と仲良くなれるよう手助けしてほしい」「子供が先生と話す時間を作ってほしい」の割合が高い。
⇒学校や先生に期待することとして、全ての学校種で「別室登校環境の整備」「欠席者に対する個別対応」「悩みをじっくり聞いて子どもを理解する」等の割合が高い。